昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和52年5月1日発行（毎月1回1日発行第9巻第5号）

バドミントン 5

日本バドミントン協会　The Badminton World No.91 1977



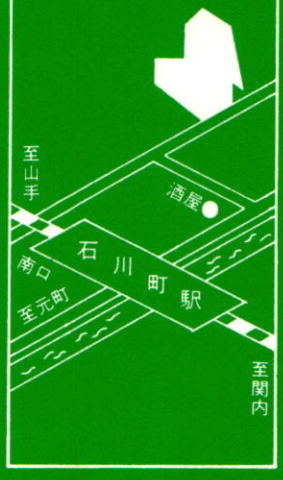
ラケットショップ元町

期間・昭和52年4月10日から5月末日

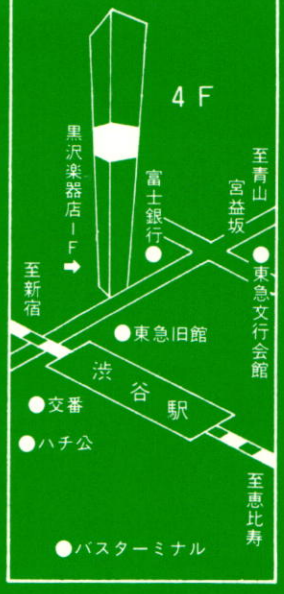
'77バーゲン Part①

全商品20%引きいたします
（ボール・シャトルは除く）

●横浜店
☎045-651-2020
バドミントン
テニス
プロショップ



●渋谷店
☎03-400-7390
世界で初めての
バドミントン
プロショップ



バドミントン 5

MAY. 1977

ヨーロッパ遠征速報

●全英選手権大会●ウェンブレー

湯木、栂野尾・植野女子単複に快挙……2

●デンマーク・オープン●コペンハーゲン

湯木のひとり舞台……4

第2回アジア招待バドミントン選手権大会特報

各選手ともあと一歩……伊藤　基記……6

圧巻!!インドネシアVS中国……8

女子は徳田・高田組が2位、近藤が3位にくいこむ健闘

欧りつけるスマッシュ……9

ABC大会応援ツアー

熱気につつまれた大会……勝浦　親次……10

もう一度見たい、ぜひ!!……永吉　知彦……11

〝アピール〟する観衆……高橋真知子……12

新・ガッツ小島の体当り実戦教室[1]——小島一平

負けず嫌いでなければ大成しない……30

第5回全国高等学校選抜バドミントン競技会

男子は熊本、女子は大阪……32

合宿訪問——東京女子体育大学バドミントン部

基礎作りに歯をくいしばって……36

われらのクラブ⑤——杉並・レディスクラブ

練習日が待ち遠しい……40

◎スポーツ保険に加入しよう／42

◎世界選手権に湯木ら10選手を派遣／42

◎昭和52年度大会予定カレンダー／44

表紙デザイン・構成＝野間デザイン室

表紙・本文写真＝赤星三樹，鷹嶋由美子

ヨーロッパ遠征速報

67th Annual All-England Badminton Championships

全英選手権

湯木(単)、梶野尾・植野(複)が快挙

――湯木と梶野尾は四度目、そして植野は初の栄冠

第67回全英バドミントン選手権大会は、3月23日から26日までの四日間、ウェンブレー市ではなやかに開催された。

女子シングルスで日本の湯木博恵選手（河崎ラケット）が四回目の栄冠を獲得し、ダブルスでも梶野尾悦子選手（ヨネックススポーツ）と植野恵美子選手（四条畷短大）のコンビが初優勝を飾り、日本女子の底力を見せつけた。

結果は次のとおりである。

◇男子シングルス

▽一回戦

池田 2(15-9, 15-13, 0) テーラー(E)

タルボット(E) 2(15-3, 15-8, 0) 尾崎

銭谷 2(15-12, 15-3, 0) スイング(I)

スチブンス(E) 2(15-2, 15-5, 0) 梶野尾

飯野 2(15-9, 17-15, 0) ウォーウォーク(E)

土田 2(15-3, 15-7, 0) G・ハンセン(D)

▽二回戦

トレジェット(E) 2(15-5, 15-8, 0) 池田

ジョンソン(S) 2(15-7, 15-7, 0) 銭谷

飯野 2(15-3, 15-4, 0) ウィルクス(E)

土田 2(15-7, 15-6, 0) グッジ(E)

▽三回戦

プリ(D) 2(15-7, 15-3, 0) 飯野

プラカシ(I) 2(15-0, 15-4, 15) 1 土田

▽準決勝

デルフス(D) 2(15-5, 15-5, 0) スミラト(IN)

リム・スイ・キン(IN) 2(15-3, 15-7, 0) プリ

▽決勝

デルフス 2(15-8, 15-11, 15-17) 1 リム・スイ・キン

◇女子シングルス

▽一回戦

ロックウッド(E) 2(11-8, 11-6, 0) 高田

近藤 2(11-3, 11-3, 0) ワイティング(E)

植野 2(11-1, 11-2, 0) アンダーウッド(E)

▽二回戦

梶野尾 2(11-3, 11-1, 0) ウェバー(G)

コーペン(D) 2(11-2, 11-9, 11) 1 徳田

近藤 2(11-0, 11-2, 0) バーグ(D)

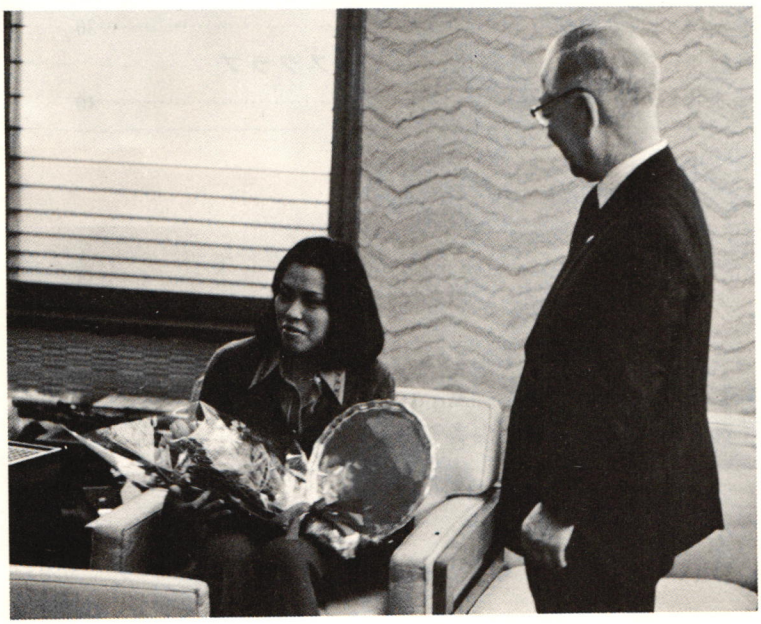
植野 2(11-4, 12-11, 0) ベケット(E)

湯木 2(11-4, 11-6, 0) リダー(H)

▽三回戦

梶野尾 2(12-11, 11-3, 0) ヤングバーグ(C)

近藤 2(11-4, 11-3, 0) スミラ(IN)



小口日本協会理事長の祝福を受ける湯木

ギルクス（E）2 11 11 2 1 1 2 0 植野

湯木 2 11 11 2 11 2 0（G）クランツ

▽四回戦

コーペン 2 12 11 7 9 0 梅野尾

ロックウッド 2 11 11 8 5 0 近藤

湯木 2 11 11 2 3 0 キルビントン（E）

▽準決勝

コーペン 2 11 12 9 6 0 ロックウッド

湯木 2 11 12 10 8 0 ギルクス

▽決勝

湯木 2 11 11 7 11 7 3 1 コーペン

◇男子ダブルス

▽二回戦

飯野田 2 15 15 4 15 4 0 フレッド・バーグ・ハンセン（D）

スチブンス・トレジェット 2 15 11 15 11 8 15 1 銭谷尾崎

チャンドラ・クリスチャン（IN）2 15 15 11 15 8 0 梅野尾池田

▽三回戦

飯野田 2 15 15 10 15 5 0 カールソン・ノーディン（S）

▽四回戦

チュン・ワジェディ（IN）2 15 15 9 15 7 0 土飯野田

チュン・ワジェディ 2 15 15 11 10 0 デルフス・スコブガード（D）

▽準決勝

チュン・ワジェディ 2 18 15 7 15 0 チャンドラ・クリスチャン

▽決勝

チャンドラ・クリスチャン 2 15 15 2 15 2 11 15 1 フローマン・キールストローム（S）

梅野尾 2 15 15 6 4 0 クーパー・ワイタッカー（E）

植野 2

▽一回戦

◇女子ダブルス

徳田高 2 15 15 2 6 0 ヤングバーグ・ウエルチ（C）

ガーラザッカ（G）2 15 15 12 12 0 湯木近藤

ベケット（E）

▽二回戦

梅野尾 2 15 15 4 5 0 カールソン・ハリス（C）

植野 2

ギルクス・スタット（E）・2 15 15 5 8 0 徳田高田

▽三回戦

梅野尾 2 15 10 15 5 3 1 ジャイルズ・ウエブスター（E）

植野 2

▽準決勝

梅野尾 2 15 15 9 15 5 7 1 ビューセコム・リッダー（H）

植野 2

ロックウッド・ペリー（E）2 15 9 15 4 8 15 ウィディアスタティ・マスリー（IN）

▽決勝

梅野尾 2 15 15 13 10 0 ロックウッド・ペリー

植野 2

〈国名表示〉 E＝イギリス、I＝インド、D＝デンマーク、S＝スウェーデン、IN＝インドネシア、G＝西ドイツ、C＝カナダ、H＝オランダ

▼湯木は一九六九年、一九七四年、一九七五年に次いで四度目、梅野尾は一九七二年、一九七三年、一九七五年に相沢マチ子選手と組んで優勝している。



表情も底抜けに明るい梅野尾（左）と植野

デンマーク・オープン

湯木のひとり舞台

各種目ともベスト4へ進出

第25回デンマーグ・オープン選手権大会は、全英に先がけて3月12～15日、コペンハーゲンで開かれ、日本の湯木博恵選手が女子シングルスを危げなく制した。日本選手は各種目にベスト4入りを果たして気を吐いた。

◇男子シングルス

▽一回戦

池　田2（不戦勝）0　ラーセン（D）

▽二回戦

池　田2（15―4　15―13）0　ラーソン（S）

銭　谷2（15―11　15―9）0　G・ハンセン（D）

土　田2（15―12　15―13）0　尾　崎

E・ハンセン（D）2（15―8　15―6）0　栂野尾

ネーガード（D）2（15―5　15―10）0　ノルディン（S）

飯　野2（不戦勝）0　ボショウ（G）

▽三回戦

池　田2（15―9　8―15　15―6）1　飯　野

M・ハンセン（D）2（15―6　15―7）0　飯　野

銭　谷2（17―15　15―11）0　シュナーゼ（G）

土　田2（15―9　15―10）1　ヘレジット（D）

小飼栄一団長の話……女子に関して言えば、ちょうど現在がヨーロッパの新旧の交代期にきているので、あと二、三年後には相当強力な選手が出てくるのではと脅威に感じました。ただインドネシアの若手は伸び悩んでいるようです。

男子の方は、プリに代ってデルフスが、ついにヨーロッパの頂点に立ち、男女ともインドネシアの王座がいつまで続くか、疑問に感じました。

女子ダブルス優勝・栂野尾悦子選手の話……植野さんがヨーロッパの選手と試合をするのは初めてですので、デンマークの時は、その弱さがモロに出てしまいました。全英で同じ相手と準決勝で当って、第1ゲームはデンマークの時と同じ試合内容でした。けれども狙われていた植野さんに調子が出て、逆に相手にとってマイナスになったようです。とにかく一人で拾って、一人で打ちまくって、植野さん一人で勝ったようなものです。

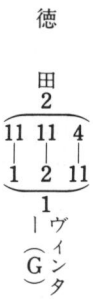
植野恵美子選手の話……本当にこわかったです。そして試合が終った日はとても疲れて、いっぺんに張りつめていたものが切れたようでした。国内の試合では味わったことのないコワサを経験しました。

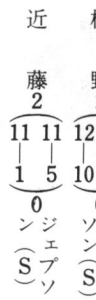
女子シングルス優勝・湯木博恵選手の話……二年間のブランクがあったので、それだけが心配でした。優勝の喜びはいつも同じですが、今回は二年間たまっているので、二倍嬉しいですね。試合を振り返っても苦しい戦いでした。3ゲーム目、3―6でチェンジエンドして、もうダメかと思ったんですが、相手のカウントが7から動かなくなったので、チャンスをものにすることができました。試合が苦しかったので、喜びが一層大きいですね。

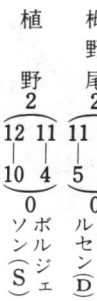


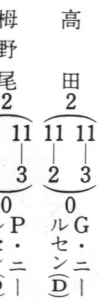
ヨーロッパ出発前の緊張のおもも

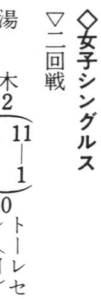
▽三回戦





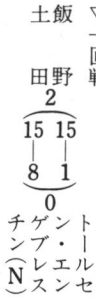


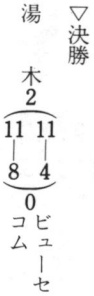


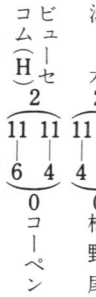


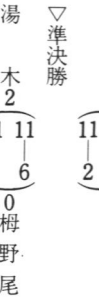
◇女子シングルス

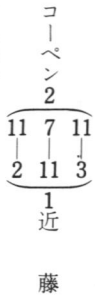
▽二回戦

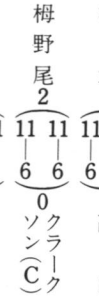






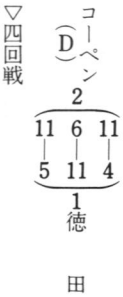


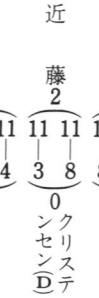


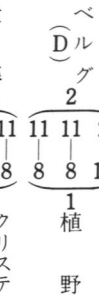


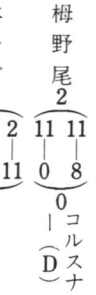


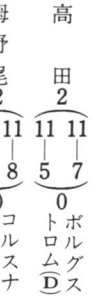
▽四回戦

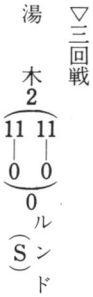






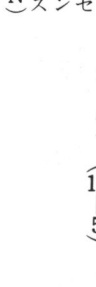


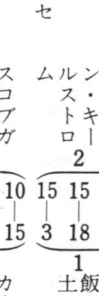




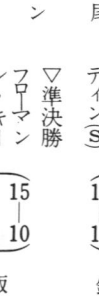
◇男子ダブルス

▽一回戦

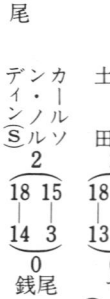


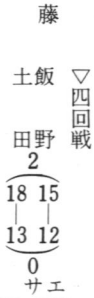


▽決勝

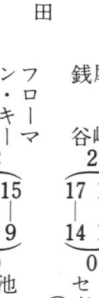


▽準決勝



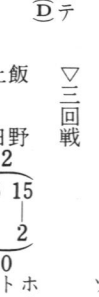




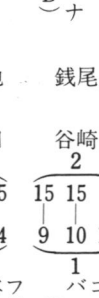


▽四回戦





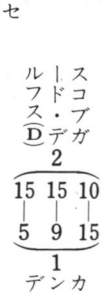








▽準決勝



▽四回戦

▽三回戦

▽二回戦

◇女子ダブルス

▽一回戦

▽二回戦

▽三回戦

▽準決勝

▽決勝

注：国名のDはデンマーク、Eはイギリス、Gは西ドイツ、Sはスウェーデン、Hはオランダ、Cはカナダ。

ABC特報

第2回アジア招待バドミントン選手権大会全日程報告

各選手ともあと一歩

日本選手団監督　伊藤基記

二月二一日

九竜空港に到着、そのまま香港のヒルトンホテルのカクテル・レセプションに誘導される。それに続いて監督会議が行われた。意外に涼しい？（寒い）。東京のままの服装で通用しそうである。選手一同元気。バスで九竜側のＹＷＣＡのホテルへ。一四階の五室に分かれて宿泊。

二月二二日

午前九時半から午後五時まで試合。（インドア・スタジアム。Ｓ・Ｃ・Ａ・Ａ）高田が韓国の呉に惜敗した他は全員快勝。試合終了後、バスにていったん、ＹＷＣＡに帰り、近くのＭスタジアムで開会式。（各国、ほとんどブレザーをそろえていたので、チョット、日本もそろえるべきだったかなあ……。）

二月二三日

本日からは全試合、九竜側のＹＷＣＡから歩いても十分程度のＭスタジアムの二面のコートで試合が行われた。まず、午前九時半から、土田がマレーシアのミスバンシデュに15―6、15―4と快勝。尾崎が、中国の欒勁に健闘したが4―15、11―15と及ばず。小島が同じく中国の闇玉江に当り、2―15、2―15と敗退。池田美加が、マレーシアのシルビア・ウンに5―11、11―2、8―11と敗れた。近藤小織が中国の何翠玲と対し、最初は2―11と手も足も出ない感じだが、セカンドゲームから、俄然もりかえし11―3、11―3と快勝してしまった。徳田敦子は中国の劉浩とシングルスで当り、11―5、9―11、11―7の大接戦の末勝つ。ただし、徳田に今一歩、チャンスに攻める力がほしい。銭谷のシングルス。相手はシンガポールのタンバンチューで15―7、15―2と一方的に銭谷のもの。飯野とタイのバンディジャイヤンが対戦。一ゲーム、4―15と押されたが、二ゲーム目で15―8と取ってフルゲームとなり、接戦したが飯野は疲れた。明らかに体力負け。ダブルスでは、銭谷・尾崎組が、中国の孫志安・姚喜明に対したが、第一ゲームセッティングにもつれこみ、今一歩というところで例のなぐり込み的な（明らかにオーバーハンドなのだが、審判・サービスジャッジも知らん顔）反則サービスを三発もくらって、17―18ととられてしまった。がっくりときて10―15と涙をのむ。各ラリー一歩もひけをとっていない。あんなサービスを出してくるようでは、失礼だが、インドネシアに敗れたのも無理はない。逆に日本としては、中国が手の届くところにきている自信を深めたと言ってよい。飯野・土田組が中国の侯加昌・廈耀東と大接戦を演じ、観衆を湧かせる。第一ゲームセッティングとなり、廈耀東の変則サービスにやられて15―18でとられ、あと12―15とくやし涙をのむ。飯野、土田ともにダブルスの感覚抜群。あとは、「力」が必要と考える。

二月二四日

休戦日で、一ヵ月前にオープンしたというオーシャンパークを観光。イルカのショ

ーなどあり、素晴しいと思ったが、ランチに続いてレセプションがあり、車と食事にせめられた感じ。ただし接待についての香港の意気込みには敬意を表します。

二月二五日

同じく、Mスタジアムで試合。銭谷君が度耀東と大接戦を演じた。3―15と第一ゲームを取られたが、第二ゲームはセッティングの末、5―0と圧勝して18―13、このままの勢いならと望みをかけたが、五分のインターバルで冷えたか、後半銭谷は明らかにスタミナが切れた。6―15と涙をのむ。土田もタイのリンシーチュアンに、2―15、10―15と体力負けして（少し自信負けもある）涙をのむ。インドネシアも、中国に皆敗れ、四本柱、全員中国となり、これから先の男子単は、興味半減、この時点で、日本の男子は一応全部消えてしまった。女子単では準々で徳田が韓国のパクオクユーン（朴）に、5―11、8―11と敗れる番狂わせあり。初出場の米倉も、中国の劉霞に体当りしたが、2―11、3―11としりぞけられた。ただし、これは初陣にして、一つ一つの内容は立派。希望あり。一人、近藤小織はマレーシアのシルビア・ウンに、二ゲームともにセッティングにもち込まれながら、12―9、12―9と快勝。続いて夜の試合。対梁秋霞に敢然と挑み、部分的には梁を大分苦しめたが、老練の前に膝をついた感じで、スコアは8―11、6―11。女子複では、第一日にインド組に勝っている徳田・高田組が、中国の劉浩・何翠玲組と対戦し、9―15、15―5、15―6と見事な逆転勝ちである。余勢をかって、タイのトンカム・パタマ組を15―5、10―15、15―5で破り、初の決勝進出を決めた。

二月二六日

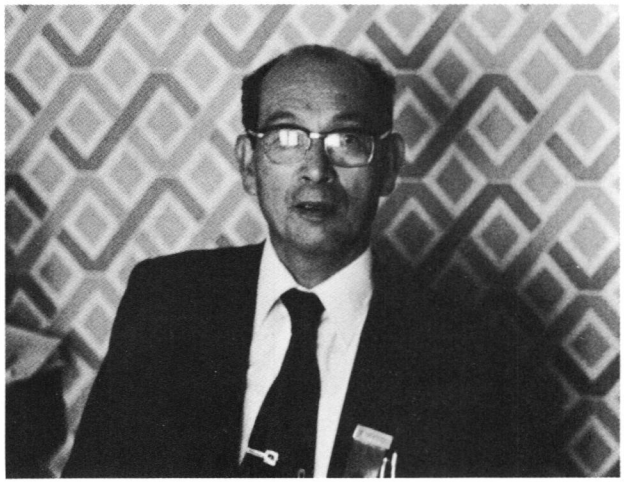
午前中に女子単の三位決定戦で、近藤小織選手が、スマッシュとヘアピンに冴えを見せ、パクオクユーン選手を11―3、6―11、11―3で快勝し、見事、徳田選手のあだうちを果たした。実際、もし徳田に続いて近藤まで、パクオクユーンの一発勝負に敗れたとなると、ユ杯予選に心理的にひびくと心配した。ホッとさせられた一戦である。本大会の最終戦は、徳田・高田組対中国の梁秋霞・劉霞の女子複、決勝であった。徳田・高田組の堂々の陣で、互角の勝負になったが、結局、梁の老練さに寄り切られた。日本のスマッシュ・コースとネットプレーに、あとわずかの運がつけばとれたゲームである。手のとどくところにきたという実感が深い。終って閉会式。領事の犬丸氏、日本のメーカーのエージェントのセス氏等の応援を深謝する。

二月二七日

お別れパーティ。

二月二八日

帰国。一同、無事を喜ぶ。



伊藤　基記監督

ABC大会特報

圧巻!! インドネシアVS中国

第2回アジア招待バドミントン選手権大会

女子は徳田・高田組が2位、近藤が3位にくいこむ健闘

去る2月22日から26日まで、香港で行なわれた第2回アジアバドミントン招待選手権大会に出場した日本選手団は、28日無事帰国しました。

男女とも、世界をリードする中国の、インドネシアのプレーに接して、成績以上にその成果は多大なものがあったようです。

結果は次のとおりです。

◇男子シングルス

▽三回戦

庾耀東 2 (15-15, 15-5, 9-0) 0 林詩詮

庾耀東 2 (15-13, 18-16, 3-0) 0 銭谷欽治

林詩詮 2 (15-15, 2-10, 0-15) 0 土田証雄

欒勁 2 (15-15, 11-15, 11-1) 1 閻玉江（中国）

姚喜明（中国） 2 (15-15, 4-13, 0-0) 0 ジャイヤン（タイ）

▽準決勝

庾耀東 2 (15-15, 5-9, 0-0) 0 林詩詮

欒勁 2 (15-15, 4-6, 0-0) 0 姚喜明

▽決勝

庾耀東 2 (15-15, 6-8, 0-0) 0 欒勁

◇女子シングルス

二回戦▽

梁秋霞（中国） 2 (11-11, 8-6, 0-0) 0 呉允漢（韓国）

近藤小織 2 (12-11, 9-9, 0-0) シルビア（マレーシア）

朴玉蓉（韓国） 2 (11-11, 5-8, 0-0) 0 徳田敦子

劉霞（中国） 2 (11-11, 2-3, 0-0) 0 米倉よし子

▽準決勝

梁秋霞 2 (11-11, 7-3, 0-0) 0 近藤小織

劉霞 2 (11-11, 3-1, 0-0) 0 朴玉蓉

▽三位決定戦

近藤小織 2 (11-6, 11-11, 3-1) 1 朴玉蓉

▽決勝

梁秋霞 2 (11-3, 11-7, 0-0) 0 劉霞

◇男子ダブルス

▽二回戦

孫志安
姚喜明（中国） 2 (15-15, 18-10, 17-0) 0 尾崎幹雄
銭谷欽治

侯加昌
庾耀東（中国） 2 (15-12, 18-15, 0-0) 0 飯野佳孝
土田証雄

▽準決勝

チャンドラ・クリスチャン（インドネシア） 2 (15-7, 18-17, 0-0) 0 孫志安
姚喜明

チュンチュン・ワジュディ（インドネシア） 2 (15-4, 8-15, 15-1) 1 侯加昌
庾耀東

▽決勝

チュンチュン・ワジュディ 2 (15-5, 15-2, 14-17) チャンドラ・クリスチャン

◇女子ダブルス

▽二回戦

梁秋霞
劉霞（中国） 2 (15-11, 11-11, 15-15) 1 池田美加
近藤小織

徳田敦子
高田幹子 2 (9-15, 15-5, 15-6) 1 劉浩
何翠玲（中国）

▽準決勝

梁秋霞
劉霞 2 (7-15, 15-9, 15-3) 1 シルビア
ロザリン（マレーシア）

徳田敦子
高田幹子 2 (15-5, 10-15, 15-5) 1 トンカム
パタマ（タイ）

▽決勝

梁秋霞
劉霞 2 (15-7, 15-6, 0-0) 0 徳田敦子
高田幹子

疲れを知らぬ男＝チュンチュン

殴りつけるスマッシュ

香港へ記者が到着した時は、すでに日本男子の名はすべて消え、連絡不手際の不運を被ったが、夜間に行われた男子ダブルス準決勝の、圧巻ともいうべき大熱戦を目の当りにすることができた。

ゲーム開始から、殴りつけるようにスマッシュを放つチュンチュン・ワジュディ組に対し、様子をうかがうように徹底したレシーブ体勢を敷く侯加昌・庾耀東、10―10から一歩もカウントが進まずに一進一退の攻防。隣りのコートでも10―10の激戦に、館内は興奮のるつぼと化した。満を持していたように、侯加昌・庾耀東も打って出る。しかしスマッシュ力において、チュンチュンの瞬発力は数段優っていた。

観衆の「ウォー、ウォー」という大合唱が、いっそうスマッシュを盛り上げる。これでもか、これでもかと打ちまくる体力と気力が、粘り切ろうとする侯加昌組を僅かに上回って、1ゲームを先取する。

第2ゲームになると、侯加昌の切返しがはやくなり、庾耀東のスマッシュを誘い、前衛で処理するケースが多くなる。チュンチュン組は、張りつめていた糸が弛んだのか、スマッシュ攻撃にも1ゲーム目のような集中力が見られない。しかし、ファイナルに入ると、再びあの鋭い目が甦ってくる。無尽蔵の体力から叩き込むチュンチュンに対し、侯加昌組は疲労の色が隠せない。スマッシュレシーブが少しずつ浅くなっていくのが、すでに勝敗を暗示して、時折つかむ攻撃のチャンスにも、スマッシュ力がともなわず、万事休した。

このダブルスの準決勝が、今大会に見られた唯一の中国敗北だった。

女子シングルスの近藤、ダブルスの徳田・高田組は大健闘だった。賞讃に値する立派な成績を収めた。しかし、中国の梁秋霞、劉霞との差は、パワー、テクニックともまだまだ大きい。仲び盛りの、近藤、徳田、高田、それに池田が、米倉が、ユ杯予選を控えて何を見てとったか、今後に期待したい。



左から劉霞、梁秋霞（中国）ロザリン、シルビア（マレーシア）



左から庾耀東、侯加昌、檠勁の中国チーム

ABC大会応援ツアー

観戦記

“熱気”につつまれた大会

●勝浦親次（関東学院大OB）

去る、二月二十五日、私達はアジア大会を観戦すべく、羽田を飛びたった。―日本の冬から香港の春へ―。

香港で私達を最初に迎えてくれたのは、日本の初夏をおもわせる、「むし暑い熱気」であった。私達のアジア大会観戦は、冬じたくからの衣がえで始まった。だがこんな衣がえでは追いつけない、もっとねばねばした「熱気」が私達を待っていてくれた。それは実に、私達の目的であるアジア大会の試合そのものであった。試合そのものとは、ただ単にプレーヤーのプレーということだけでなく、試合を構成しているその全て、観衆＝プレーヤー＝体育館＝プラスアルファーであった。

申し遅れたが私達とは、アジア大会を観戦すべくツアーを組んだバドミントン仲間である。

私達の到着した日はすでに、準決勝の日であった。六時開場の体育館に五時半につくべくホテルを出る。むし暑さに慣れぬ私は、車の窓をあけ香港見物。さてよく目にするものが見える。なんとバドミントンを楽しむ光景。ガイドさんいわく、「こちらではバドミントンとサッカーが盛んなのです」と。だから、「皆さんが体育館につかれるころには、観衆が集まっている。早く並ばれた方がいいです」と言うのである。実に、ガイドさんいわくである。私達は予定どおり五時半に体育館到着。すでに数えきれぬほどの人であった。私もおおかたの国内の試合は見ているのだが、こんな光景におめにかかったことはない。あァあァ、たった一度私がまだ高校生のころ、ユーバー杯のチャレンジラウンドが東京で行なわれた時、こんな光景をみたなと思いおこした。しかし、路上でのバドミントンといい、この観衆といい、日本では、まだまだマイナースポーツであるバドミントンがこうも盛んであることに、嫉妬と嬉しさとを同時に味わった。

さて、熱気ある試合であるが、私達（少なくとも私）を驚かせ、興奮させてくれたのは、何と言っても男子ダブルスであった。準決勝の中国、侯加昌・慶耀東組対インドネシア、チュンチュン・ワジュディ組、そして、インドネシア同士の決勝、チュンチュン・ワジュディ組対チャンドラ・クリスチャン組の試合。これらの試合は、何とも形容しがたい、私がかつてみたこともないバドミントンであった。中国、侯加昌選手の老巧なる沈着、冷静なプレー。他の五選手の今にもラケットが折れんばかりの強打、どんな所からも、どんな球をも、攻撃に結びつける速いタッチ、脚力、それらを終始支える体力、そして予見、予見と言うより百戦練磨の勘。最初から最後まで攻撃なのである。攻撃対攻撃の試合。試合というよりは、むしろ日本風に「勝負」と言ったほうが明確かもしれない。見ている私もが、気を抜くことを許されぬプレー。一球が全てであり、飛びかうシャトルがプレーヤー自身の精神であるがごとく新鮮なるプレー。見守るすべてを吸収してしまうプレー。まさしく私は感動させられた。私ならずとも（バドミントンを知らぬ人をも）、彼等のプレーをみるならば、感動せずにはいられないであろう。悔しむらくはこの「感動」を日本人選手によって与えてほしかった。

私も、バドミントンを楽しむ一人として、アジア大会における観衆とプレーヤーのすばらしさに拍手を送りたい。日本でいつこうした試合（プレーヤーのプレーにとどまらず）をみることができるのであろう。それはバドミントンを行うすべての人の気持によるしかないと思う。



試合前から並んで入場を待つ人々

もう一度見たい、ぜひ!!

●永吉知彦（関東学院大ＯＢ）

世界最高峰の試合と言われているアジア大会を目のあたりにして、大変興奮してしまった。

今でも目に焼きついて離れないのが、インドネシア同士のクリスチャン・チャンドラ組対チュンチュン・ワジュディ組の男子ダブルス決勝の試合である。

私は今までに日本で行われた国際試合をはじめ、その他、数多くの試合を見たが、これほど興奮し、手に汗握る試合を見るのは初めてであった。

クリスチャンの前衛での鋭い勘のよさには度肝をぬかれた。どんなにすばらしい切返しを打たれようと、必ずと言っていいほどそれを止めてしまい、うしろへ抜けることがない。そしてときにはその打った打球がカウンターとなり、相手コートに突き刺さる場面が何度かあった。

クリスチャンの前衛でのすばらしいプレーに対し、相手側であるチュンチュンの後衛でのプレーもそれに勝るとも劣らない見事なものであった。あのスマッシュの速さ、そしてスマッシュを打つときのフォームときたら表現するのに困ってしまう。決してきれいなフォームとは言えないが、しかし、どんなところからでもジャンプをしてスマッシュを打ちまくり、いまにでもスチールのラケットがめちゃくちゃに壊れるのではないかと余計な心配をさせるほど豪快である。体もそれほどガッチリとはしてないのに、どこからそんなパワーがでてくるのか、やはり練習量の豊富さではないだろうか。

チュンチュンのすばらしさは何度か話には聞いていたが、まさに「百聞は一見にしかず」とはこのことであると思った。

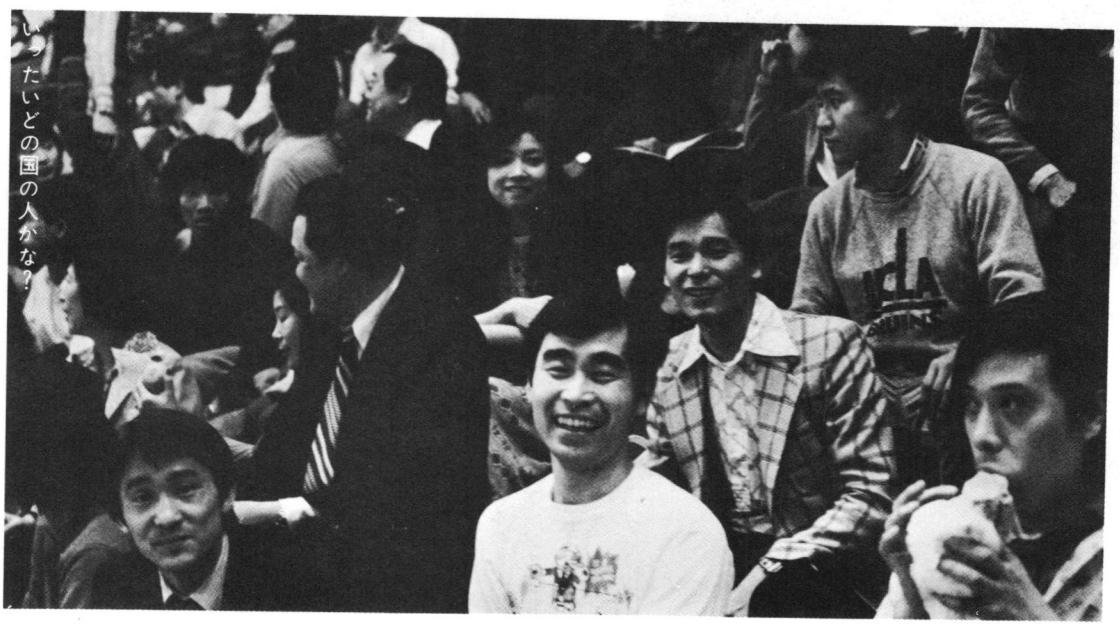
一つだけ非常に残念なことがある。それは、第二のハルトノと言われているリム・スイ・キンとは、どんなプレーをするのか楽しみにしていたのに、そのシングルスプレーが見られなかったことである。

インドネシアのプレーヤーのことばかり書きすぎたようであるが他のプレーヤーが印象に残らなかったというのではない。中国選手のプレーも非常によかった。しかし、中国選手のプレーは日中友好試合で見たことがあるので、それほどびっくりはしなかった。

各選手のプレーもさることながら、それらを盛り立てる試合会場、観客などはなんともいえない味わいがあり、ほんとうの本物という感じである。日本の競技場のようにりっぱではなく座席などは石の段で出来ていて、長く坐っているとお尻が痛くなってしまうのである。しかし、試合を見る雰囲気ときたら最高である。

最後に、出来ることならばアジア大会を日本で開催し、日本全国の人々に是非観戦していただきたいと思う。

そして私ももう一度見たい!!



"アピール"する観衆

●高橋真知子（青山学院大OG）

私達バドミントン応援ツアー一行総勢七名、少々寂しい人数ではありましたが、日本からの応援団だという意気込みで、羽田空港を飛び立ち、そして四時間あまり空の快適な時を過ごして、香港に到着。まず驚いたのは、知識として知ってはいたものの、時差一時間ぐらいの近い所で、旅立つ時は冬仕度、着いたら初夏に衣替えという気候の変化でした。

ところで肝心のABCの事ですが、男女とも小島選手を筆頭に、皆さん頑張って試合を戦ったにもかかわらず、私達が到着した時は、残念ながら男子は、ちょうど準決勝で銭谷選手も敗れ去った後でした。女子の方は、若手の徳田・高田両選手と近藤選手が、準決勝に進出という事を聞き、気を持ち直した次第でした。

私達の観戦日程は、二日間、驚いた事に、夜間六時～十時頃までという予定。日本では、大会のプログラムが夜間などなかったので、大変興味をひかれ、観戦第一日目、シングルス・ダブルス男女準決勝の会場へ行きました。開場三十分前ごろにすでに、体育館前には、異国の人々（時刻的な事があると思うが、日本と違って年齢層が高いように思われた）が、今や遅しと会場を取り巻き、何か会場へ踏み込む前から、日本とは雰囲気が違う事を感じ、また二日目決勝の日、会場前の歩道には、延々たる行列が出来るほどで、日本でいうとまるで「ロードショー」を見に行った時のようだと思ったりしました。

会場は代々木体育館のように立派な建物ではなく、観覧席は階段形式、そしてそこに何千という人々が、拍手でもしたら肘が隣りの人にぶつかりそうなくらいひしめき合って座り、観戦するというところに、一種独特のものを感じました。試合開始のコール、これだけで、体育館割れんばかりの拍手、私はこれだけでも圧倒され、暫く香港のこの会場の雰囲気に慣れるまで時間がかったほどです。そして、試合中の好プレーに対する、惜しみない拍手、声援、そしてまた応援の熱狂的な事、日本の観客と違い自分のその時の気持をすべてアピールしている。〝アピールできている〟と言えそうなくらい羨ましく感じ、いつしか私も興奮の渦の中にいた。このように応援されたら、選手としても気が乗り、張りが出るだろうなどと強く感じ、日本との観戦ムードのあまりの違いに、目を見張るばかりでした。

ところでゲーム内容も驚くばかりで、今まで私は視野がなんと狭かったのだろうと思い、上には上があったと、つくづく感心しました。例えば、中国選手の早い前進でとらえるネットプレーの巧みな事、ラリーの最後まで打ち抜くスタミナあふれるプレー。それは、インドネシアの選手にも共通している事ですが、ダブルスにおいて、チュンチュン選手のジャンプスマッシュ、これを打つと絶対にきまってしまう。ものすごいバネ。クリスチャン選手のプッシュ、まるでラケットにシャトルが吸い付けられているようでそして前でスマッシュでもしているような迫力があった。その他いろいろ好プレーはあげきれないのですが、終始手に汗にぎる素晴らしい、見ごたえのある試合で、香港まで行ったかいがあったと、満足して帰ってきました。

そして、女子選手の好成績をはじめ、遠征された選手の方々ご苦労様でした。

是非このような試合が、身近で行われるよう日本のバドミントンも、バックアップの強化を望みたいものです。

（筆者はいずれも ラケットショップ元町勤務）



観衆の中の日本選手団


バブル爽快! サントリービール
サントリービール純生®
SUNTORY
BREWED
BREWERY
REAL DRAFT
純生

タイ国チームの大合唱　右はしは日本にも訪れたことのあるバンディ・ジャイエン選手

第2回
アジア招待
バドミントン選手権大会

「カンパーイ」中国チームも楽しそう（このオレンジジュースは本当においしいのです）

オフ・ザ・コート



高田選手とタンスチャン選手のとなりではこんなにオトナシイ!!



昨年来日しがんばった韓国の呉と朴両選手



「あれはオレのトリ肉だゾ」シャトルよりも真剣なまなざしを向ける尾崎(右)と 飯野の両選手



部屋でくつろぐ〝ヤマトナデシコ〟（？）池田・近藤・米倉（左から）

緊張のほぐれるひととき



大任を果たしてホッとひと息の徳田（右）・高田



宿舎でくつろぐ日本男子チーム

carlton

New Badminton Racket



●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント



威力壮烈!

20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

metro

総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

1977年：バドミントンに革命！

わずか15g しかないカーボン・スチール・シャフトがバドミントンの常識をすべて覆しました。驚異的なシャフトの弾性とすばらしいバランスでシャトルコックを自由自在にコントロールします。打った瞬間、その違いがはっきりと手に伝わります。今、プレヤー達に絶賛の声を浴びてカールトン＆メトロの技術が勝利を手中におさめました。

カーボニックシリーズ

新発売

話題騒然、カーボンでこの価格！



総発売元 メトロレジャー株式会社

〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

The 2nd
Asian Badminton
Invitation Championship

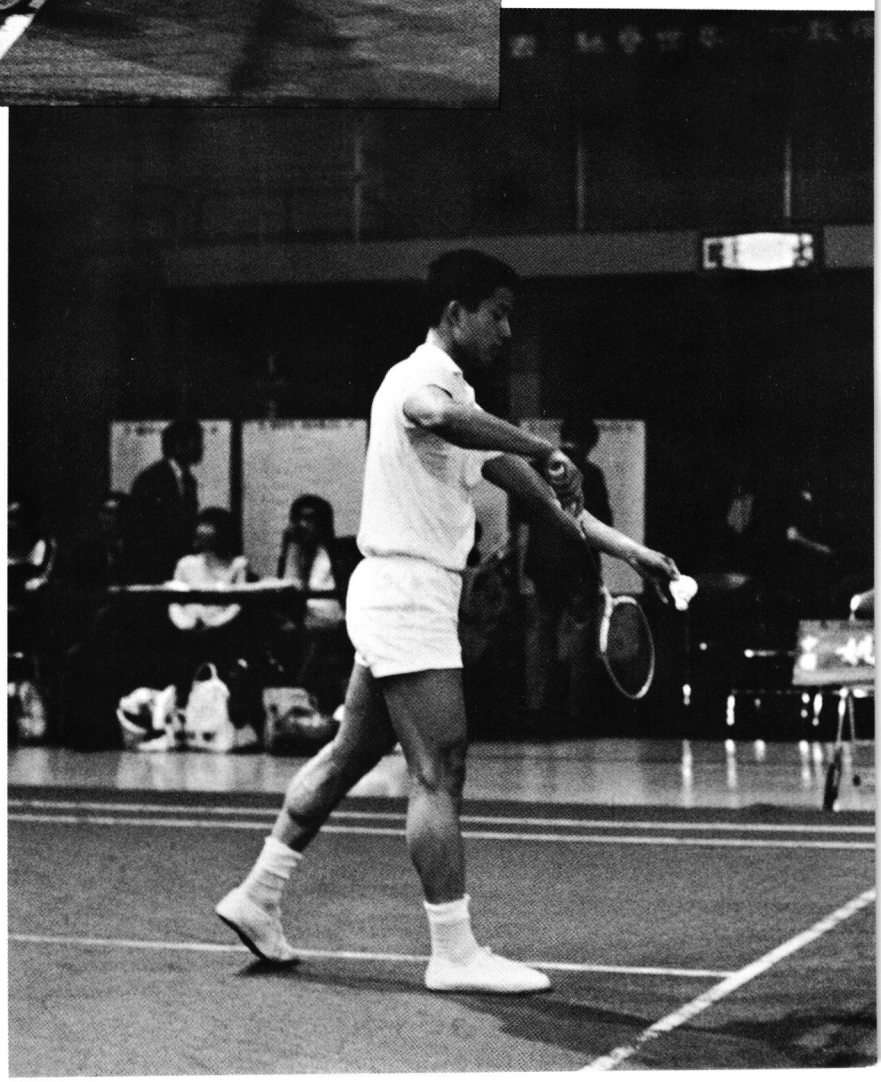


２回戦を昨年の全英準優勝者リム・スイ・キンを
ストレートで降し、中国の層の厚さをみせた庾耀東

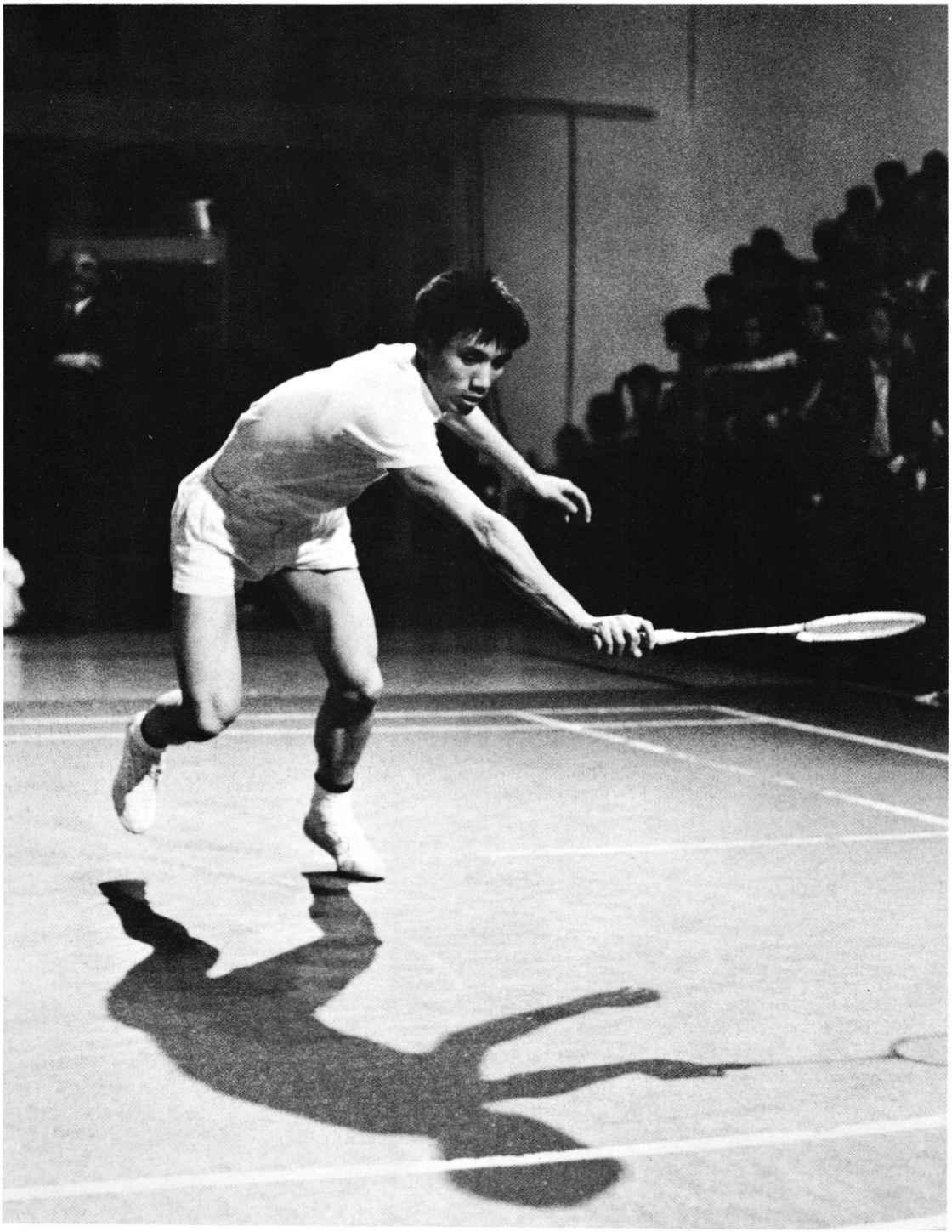
男子シングルスは中国の独壇場



いまや中国の主力となった欒勁

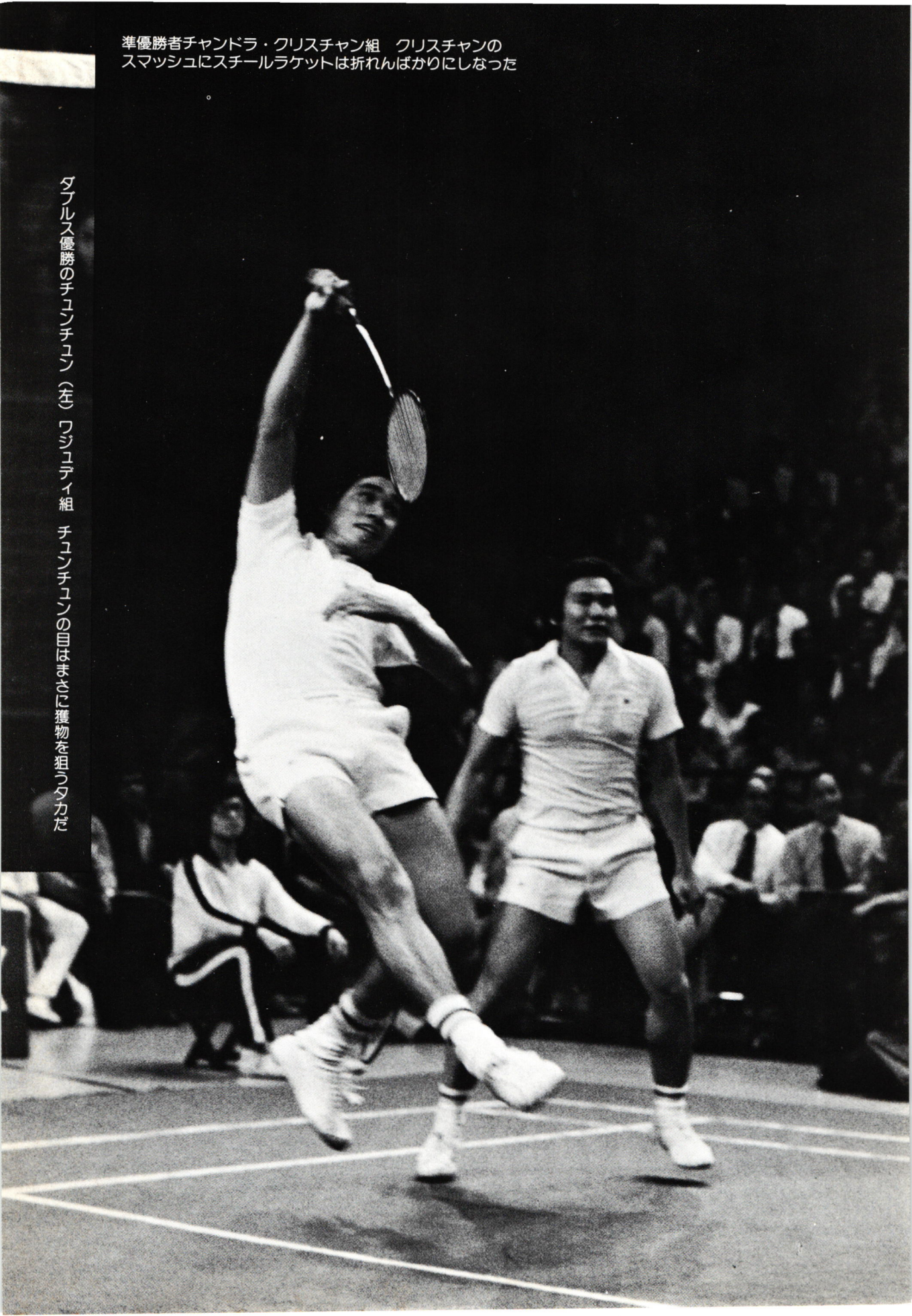


中国の新鋭・姚喜明のバックハンド・サービス

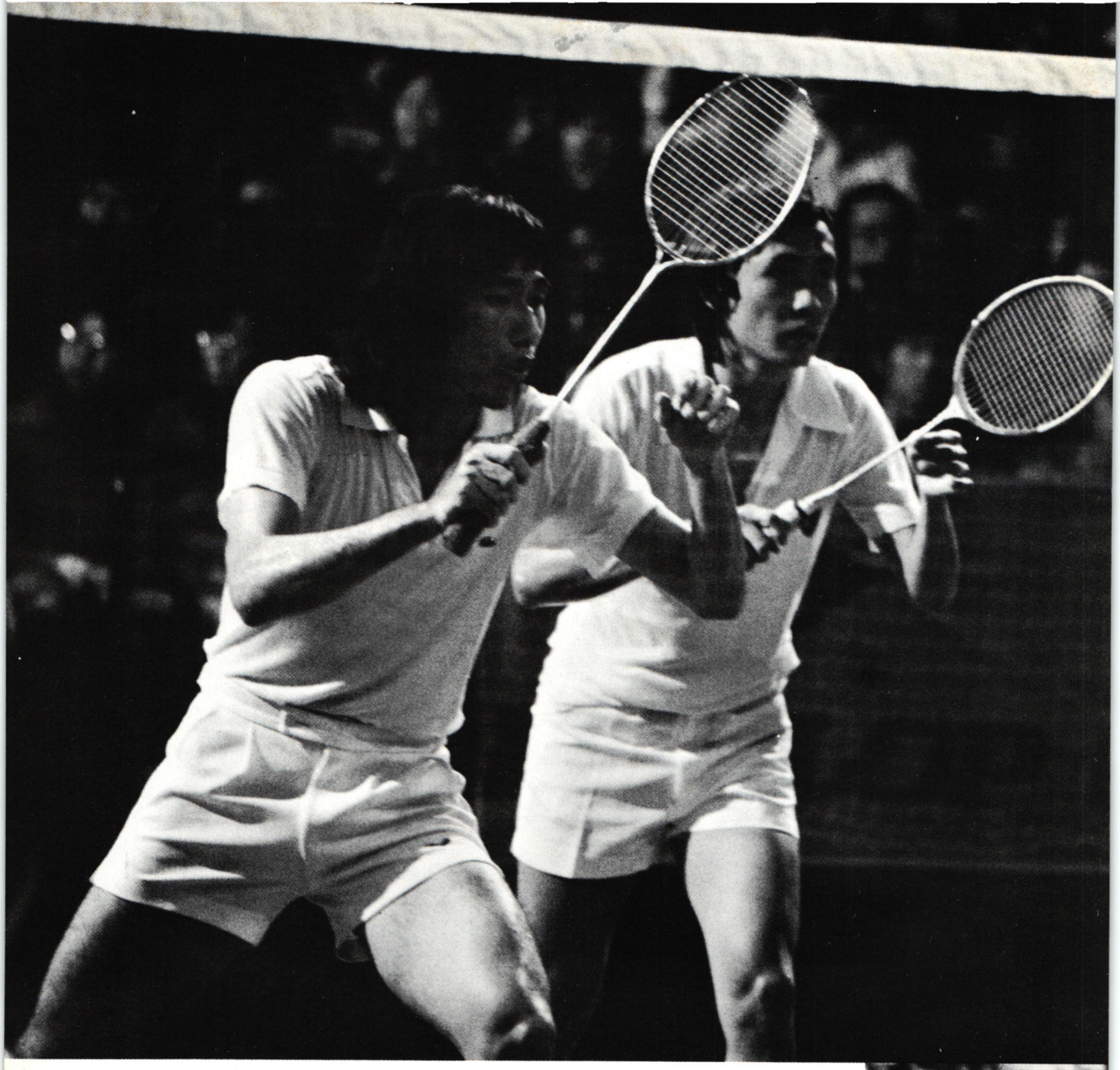


日本にきたことのある林詩詮

準優勝者チャンドラ・クリスチャン組　クリスチャンのスマッシュにスチールラケットは折れんばかりにしなった



ダブルス優勝のチュンチュン（左）ワジュディ組　チュンチュンの目はまさに獲物を狙うタカだ



ダブルスだトーナメント入も面白味の

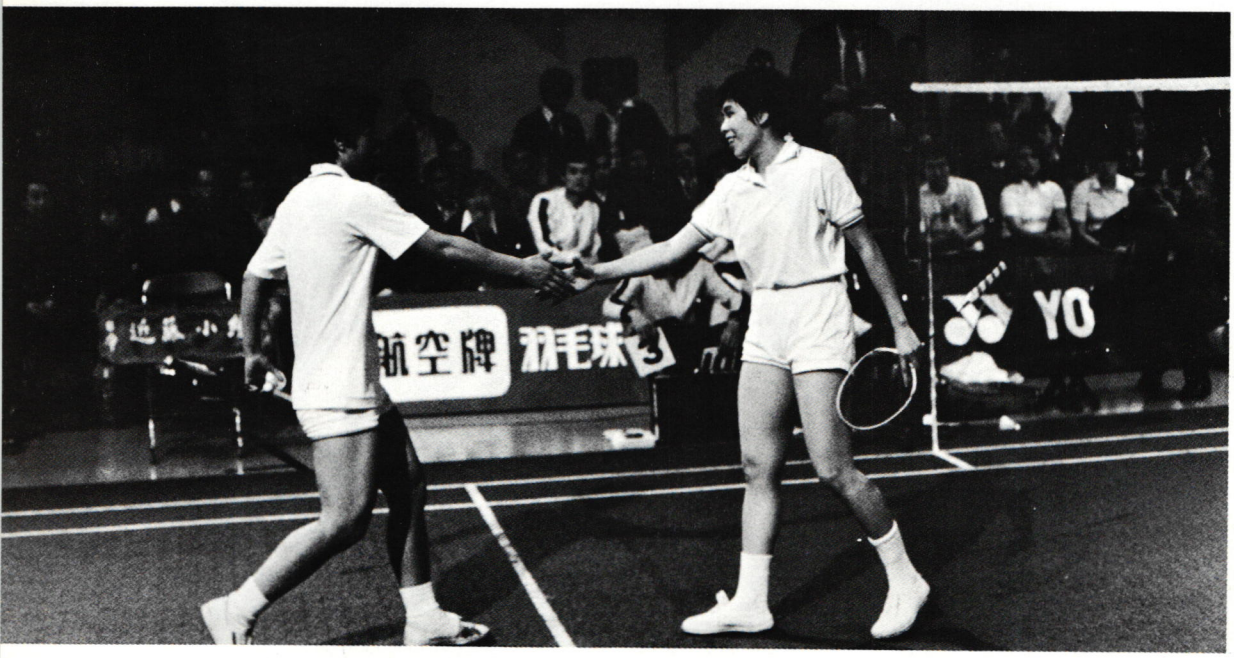




2位以下を大きく引き離して単複を制した梁秋霞

余裕ある試合運びでマイペースをくずさなかった梁秋霞・劉霞組





よく善戦した近藤（左）に梁秋霞はニッコリと歩みよった

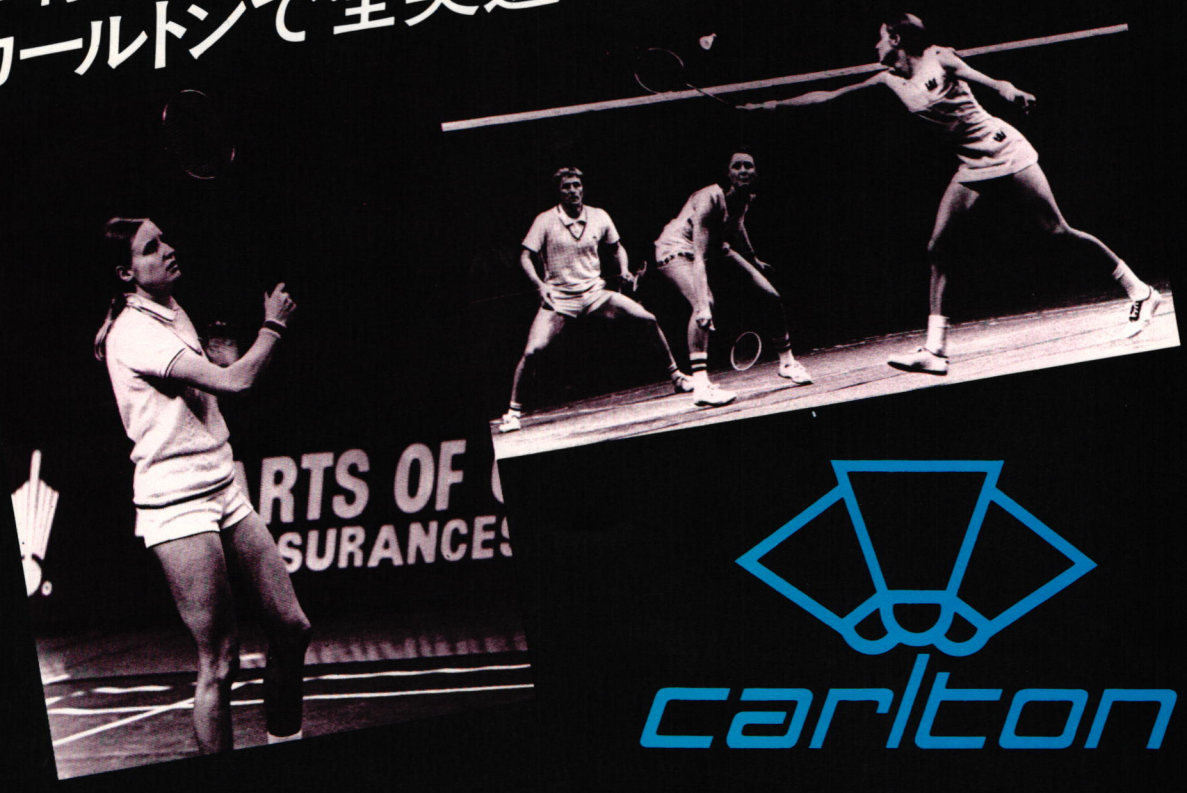


男子シングルスを制し、香港バドミントン協会会長・湯恩佳氏から記念品を贈られる庾耀東。カメラマンもどっと押しよせた

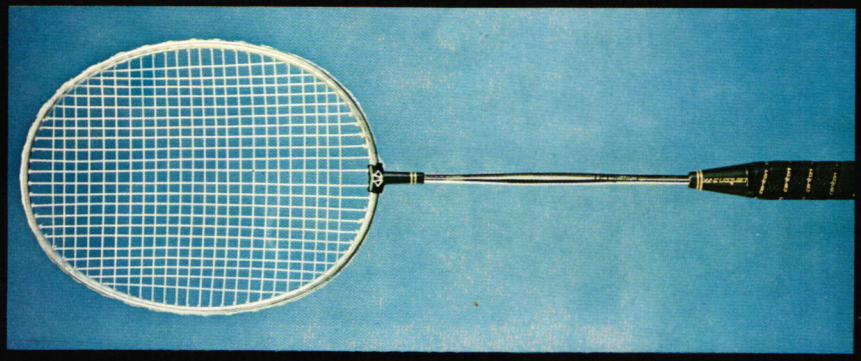


よく健闘して準優勝に入賞の徳田（右）・高田の両選手記念品を手にニッコリ

ご存知、ギルクス夫人。
カールトンで全英選手権3種目制覇!!



carlton

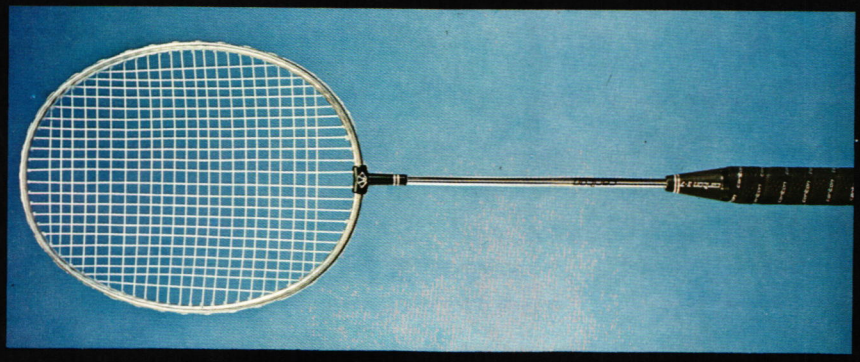


carlton 3.7X

¥9,500

（カバー付）

ステンレスフレーム　フラット・シャフト使用



carlton 3.7

¥8,500

（カバー付）

ステンレスフレーム　テーパー・シャフト使用

metro

総発売元　メトロレジャー株式会社

〒101東京都千代田区外神田5－6－4　☎(03)833－3661(代)

from carlton England

1,000,000ダース

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個
¥280

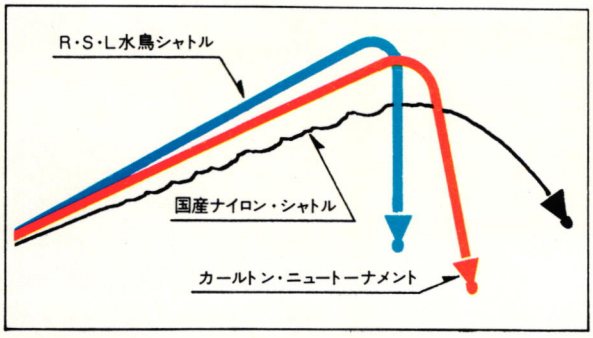


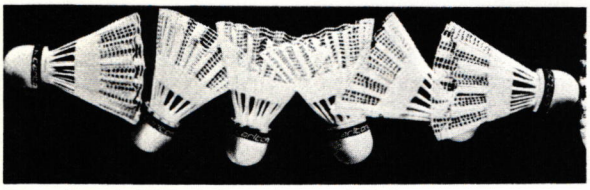


インターナショナル

1個
¥220

だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。





ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

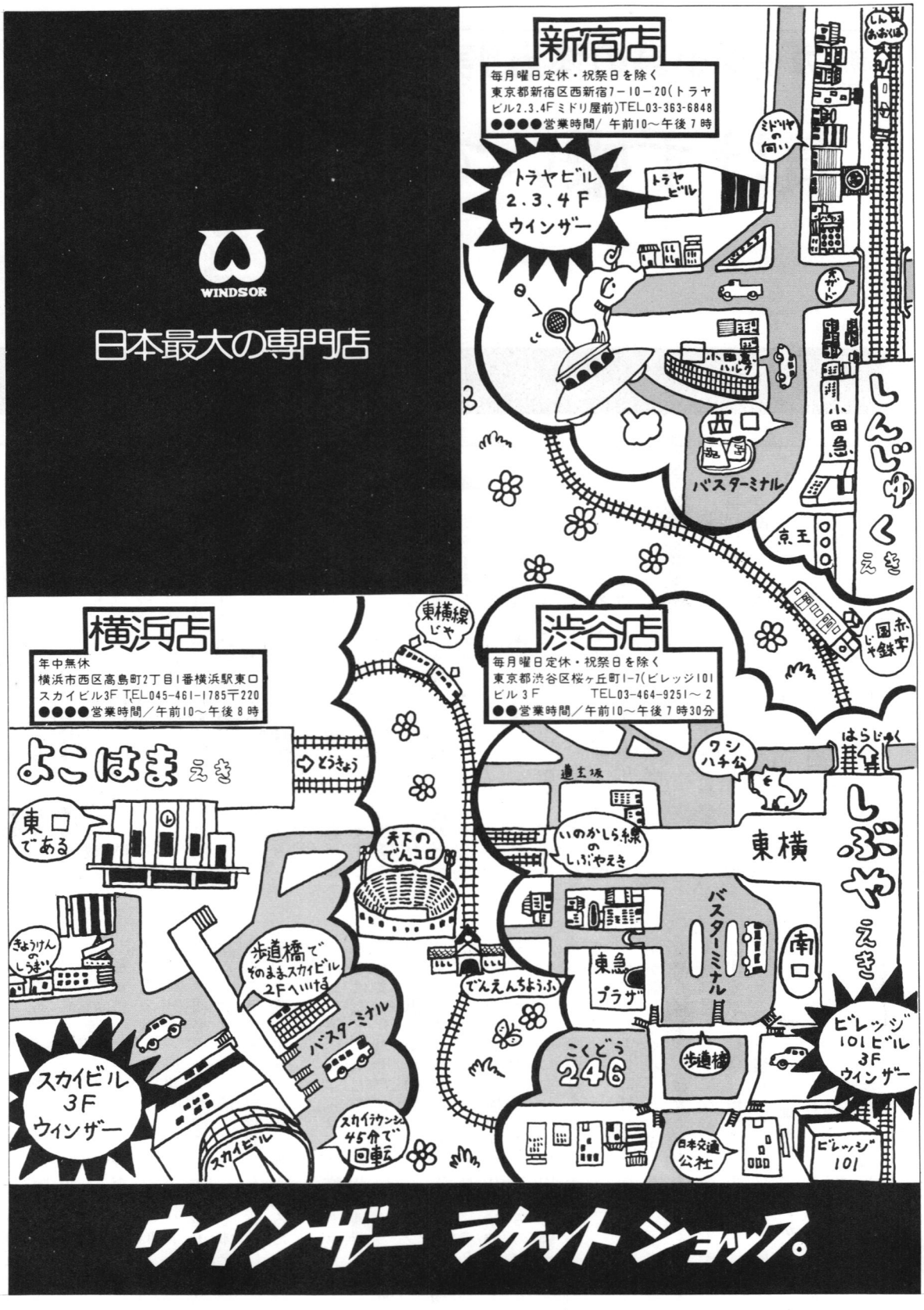
左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

しかも、国産品とは飛びが違います。

だから

シャトルコックならカールトン

総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)


WINDSOR
日本最大の専門店
新宿店
毎月曜日定休・祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7－10－20(トラヤビル2.3.4Fミドリ屋前)TEL.03-363-6848
●●●●営業時間/ 午前10～午後7時
トラヤビル 2、3、4F ウインザー
トラヤビル
ミドリヤの向い
しんじゅくえき
小田急ハルク
西口
バスターミナル
京王
横浜店
年中無休
横浜市西区高島町2丁目1番横浜駅東口
スカイビル3F TEL045-461-1785〒220
●●●●営業時間／午前10～午後8時
よこはまえき
東口である
スカイビル 3F ウインザー
きょうけんのしろぼし
歩道橋でそのままスカイビル2Fへいける
バスターミナル
スカイビル
スカイラウンジ45分で1回転
渋谷店
毎月曜日定休・祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3F TEL.03-464-9251～2
●●営業時間／午前10～午後7時30分
東横線じゃ
ワシハチ公
道玄坂
いのかしら線のしぶやえき
天下のでんコロ
でんえんちょうふ
東急プラザ
こくどう246
歩道橋
バスターミナル
南口
東横
しぶやえき
はらじゅく
ビレッジ101ビル3F ウインザー
日本交通公社
ビレッジ101
ウインザー ラケットショップ。

新ガッツ小島の体当り実戦教室 1

負けず嫌いでなければ大成しない

●小島一平

勝負の世界は、きびしい。〝勝てば官軍、負ければ賊軍〟のことわざのとおりである。

しかし、最初から最終目標まで、無敗でいくなど不可能である。だから、いかに敗戦の悔しさ、情けなさを次回の試合まで、一時も忘れず持ち続けるかである。それが一つの根性というものではなかろうか。

よく、負けた原因をよく考え、次回に臨むなどと、格好の良いことをいうが、とんでもないことで、とにかくガムシャラに体当りし、今まで以上に、一心不乱に練習に打ち込み、はじめて一歩一歩、前進するのだ。

簡単に、敗戦の悔しさ、情けなさを忘れるなといっても、これは大変なことで、まずこの点で、強くなれるかなれないかの瀬戸際になるのである。そして、自己に対してきびしくできない者は、逃避してしまい、何かと言い訳をするのである。言い訳など、まったくのタブーなのだ。

私も最近は、練習ができないとか、年だとか、くだらないことを言い出す始末で、情けなくなることがある。しかし、こうして〝バドミントン界〟を通して、数多くのプレーヤーの方々に話しかけることにより、私は、まだまだやめてたまるか、やるぞ!!という決意が強くなる。

皆さんも是非、毎日毎日の練習の反省なり、自己に対してのノルマ、励ましをノートに書き殴り、自己に負けぬ一つの方法として実践してみてはどうか。私は高校時代から、大きな紙に打倒誰々と常に書き、自己に対して刺激を与えてきた。バドミントンは紳士のスポーツであるなどと、バカげたことをいう人もいるが、スポーツすべて、〝ていの良いケンカ〟である。相手に対して敵意を持ち、鋭い目でにらみつけるぐらいの迫力がなければ、とうてい強くなれないのだ。

私が言いたいことは、練習方法も確かに必要であるが、そんなことよりも、いかにやる気になって、長期間にわたってバドミントンに取り組めるかが問題で、先に述べたように、ガムシャラに人の倍、いや三倍と体を痛めつけることであり、短時間でも、非常に苦しい練習を遂行することが、強くなるための最短の道である。

詳しく述べるならば、体操もダラダラするのではなく、全力で、また基本練習なども、例えばハイクリアーにしても、二、三歩前へ出て、思い切り動くことだ。スマッシュにしても、一発一発全力で叩いて、とにかく練習なのだから早くバテる、疲れる。そして、それからが勝負だ。体力があり、精神的にもパーフェクトの時は、誰でもできるのが当り前だ。バテバテになれば、集中力も鈍る。そこからいかに頑張れるかが、不可欠の条件なのである。

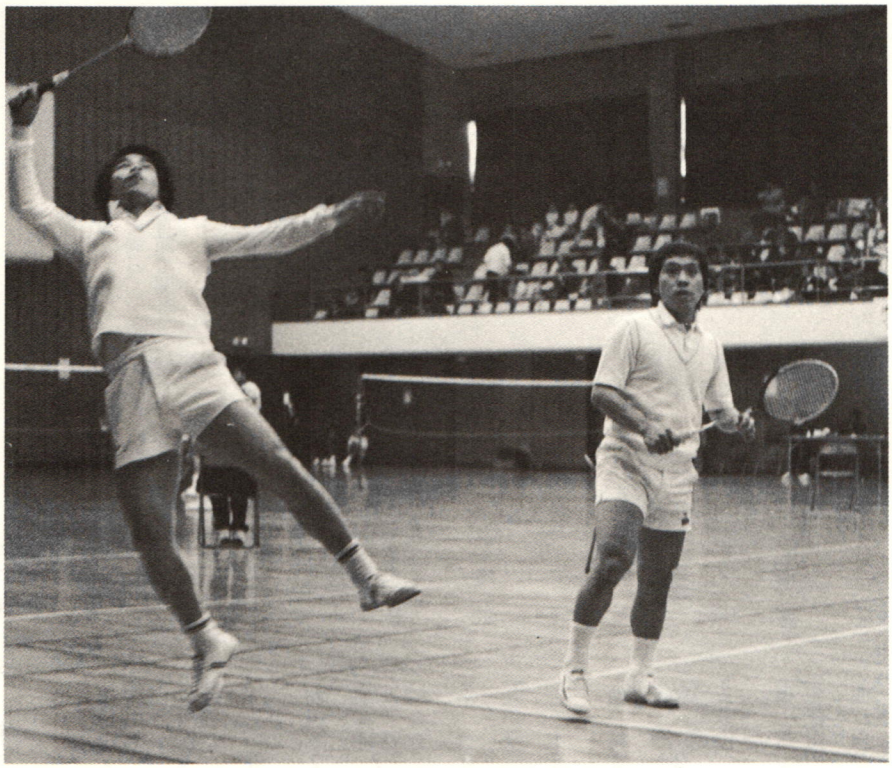
バドミントンに打ち込めば打ち込むほど光明が射してくる。ということは、まず何事にも熱心になり、自分より上手な人を食い入るように見ることになる。一流プレーヤーの参加する試合には、積極的に出かけて、そして良いところを盗み、自分のプレーに取り入れるのだ。最近よく、練習なり試合が終ると「お願いします」とアドバイスを求めにくる傾向があるが、くだらないことだからやめたほうがよい。自分の弱点は、プレーした本人が、

一番わかっていなければいけないからだ。

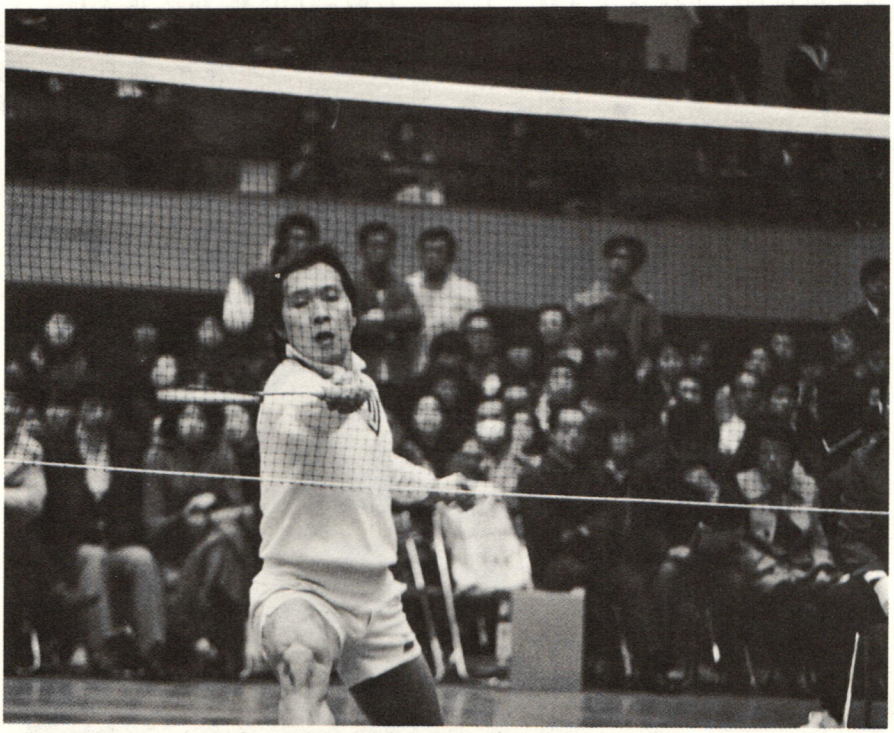
強くなることがすべてではない。一生懸命努力する過程が必要だということも、確かに一理ある。しかし、一歩足を踏み入れた以上、人間誰しも強くなりたいと思うのが当然で、人間には、自己満足と同時に、人に注目されたいという気持があるはずである。そのような気持がないという人は信じられない。そして、そのような人は卑怯であるし、逃避そのものではないか。

私は〝常に、不安でいなければならなかった〟。大学チャンピオンになってからは、いつ負けるか、もう負けるのではないかと、不安感につきまとわれ、それ以来、とにかく練習練習の明け暮れで、不安を解消したことを憶えている。

（つづく）



永年のパートナーである秋山選手と組んで



気合のはいったネットプレー

第五回全国高校学校選抜バドミントン競技会

男子は熊本、女子は大阪

個人は

男子単＝上村、複＝野呂・松月組
女子単＝平、複＝河村・末兼組

が制覇

第五回を迎えた全国高校学校選抜バドミントン競技会が、去る三月二〇日・二一日の両日、福島県郡山市の総合体育館で開催された。

朝夕の冷込みは、まだまだきびしいものがあったが、日中は晴天に恵まれ、夏の全国大会の試金石ともいうべき、若人の祭典にふさわしい天候だった。

団体戦は一複二単・国体形式で行われ、個人戦の単・複に、重複して出場権は得られないという独特の規定のもとに举行された。

結果は次のとおりである。

◇男子団体

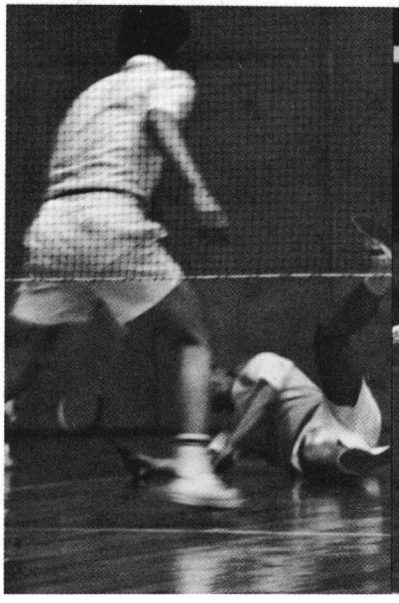
▽一回戦

石川 3（単2—0、複1—0）0 北海道
坂本 2（15—9、15—9）0 千葉
石崎 2（15—9）0 中川（金沢市工）（帯広柏葉）
清水 5（7—15、15—12、15—9）1 佐々木（金沢市工）（釧路商）

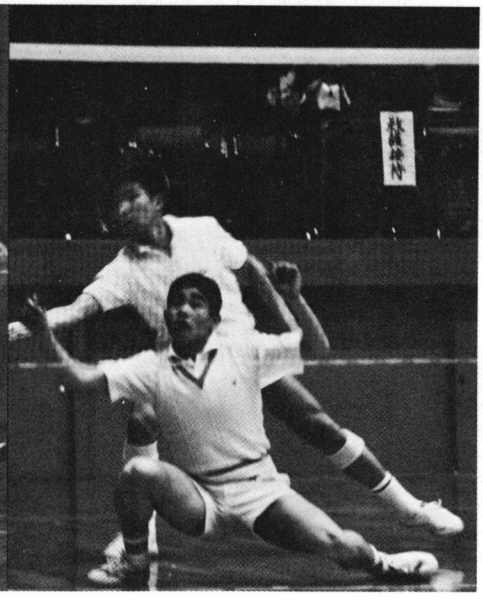
坂本 2（15—11、15—5）0 千葉
滋賀 3（単2—0、複1—0）0 山口
西山 2（15—7、15—3）0 喜良川原（比叡山）（柳井工）
保科 2（15—3、15—3）0 久保田（比叡山）（柳井工）
西山 2（15—8、15—0）0 喜良（比叡山）
青森 2（単1—1、複1—0）1 埼玉
丹藤 2（15—10、18—15）0 中山楠美（東奥義塾）（小松原）
島内 2（15—9、11—15、15—8）1 鈴木（弘前実）（八潮）
丹藤 0（15—17、10—15）2 中山（東奥義塾）
香川 2（単1—1、複1—0）1 福島

▽二回戦

今田 香川 2（高松第一）（15—3、8—15、17—16）1 清野新田（会津工）
中西 2（高松第一）（15—10、15—2）0 佐藤（会津工）
今田 0（10—15、10—15）2 清野（会津工）
熊本 2（単1—1、複1—0）1 石川（金沢市工）
宮本 石 2（15—7、15—6）0 坂本石崎（九州学院）（金沢市工）
上村 0（13—15、17—18）2 清水（九州学院）（金沢市工）
宮本 2（15—4、15—2）0 坂本
滋賀 2（単1—1、複1—0）1 三重
西山 矢部 2（15—0、15—7）0 野呂松月（比叡山）（伊勢）
保科 1（10—15、11—15、15—10）2 池田（比叡山）（伊勢）
西山 2（15—3、15—6）0 松月

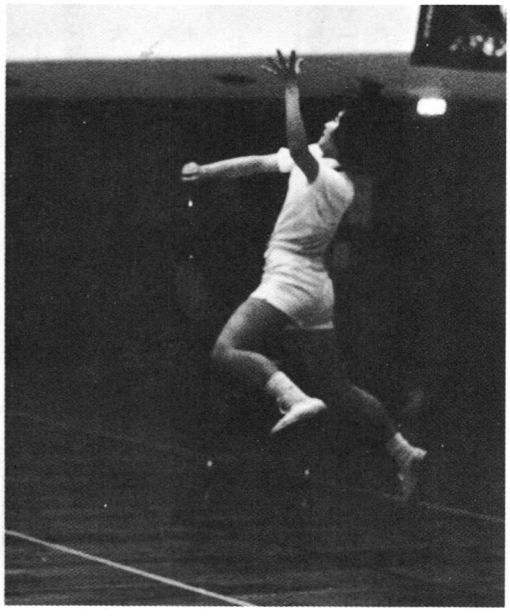


男子複２位の丹藤・楠美組



優勝候補筆頭だったが……西山・矢部組

女子単2位の高峯



女子単1位の平



▽準決勝

熊本	2	単	1	0			滋賀	2	単	1	0				
		複	0	0					複	1	0				
宮本	2		15	15			西山	2		15	15				
石	2		15	9			矢部	2		8	6				
宮本							西山								
石	2		15	15			矢部	2		15	15				
丹							今								
楠	2		15	15	15		藤	2		15	15	10			
美	2		15	15	15		川	2		4	4	15			
丹							今								
楠	0		15	15			藤	0		15	15				
美	0		11	9			川	0		4	12				
島							保								
内	2		8	15	8		科	2		15	15				
島	0		15	7	15		中	0		8	6				
内	0		8	15	7		西	0		15	15				
上							島								
村	2		15	15			内	2		2	1				
上	0		17	15			島	0		15	11				
村	0		15	11			内	0		1	5				
宮							上								
本	1		11	7	18		村	2		15	15				
石	2		15	15	16		島	0		9	13				
宮							上								
本	2		15	12	15		村	2		15	15				
西	1		7	15	9		保	0		4	12				
山							科								

▽決勝

熊本	2	単	2	0			滋賀	1	単	0	1				
		複	0	1					複	1	0				
宮本	2		15	12	15		西山	2		15	15				
石	1		11	7	18		矢部	2		15	9				
宮本							西山								
石	2		15	15	15		矢部	1		11	7	15			
丹							今								
楠	2		15	15			藤	2		15	15	10			
美	2		15	15			川	1		4	4	15			
丹							今								
楠	0		15	15			藤	0		15	15				
美	0		11	9			川	0		4	12				
島							保								
内	2		8	15	8		科	2		15	15				
島	0		15	7	15		中	0		8	6				
内	0		8	15	7		西	0		15	15				
上							島								
村	2		15	15			内	2		2	1				
上	0		17	15			島	0		15	11				
村	0		15	11			内	0		1	5				
宮							上								
本	1		11	7	18		村	2		15	15				
石	2		15	15	16		島	0		9	13				
宮							上								
本	2		15	12	15		村	2		15	15				
西	1		7	15	9		保	0		4	12				
山							科								

▽三位決定戦

青森	2	単	1	1			香川	1	単	1	0				
		複	1	0					複	0	1				
丹							今								
楠	2		15	15	10		藤	2		15	15	15			
美	2		4	4	15		川	1		15	15	13			
丹							今								
楠	0		15	15			藤	0		15	15				
美	0		11	9			川	0		4	12				
島							保								
内	2		8	15	8		科	2		15	15				
島	0		15	7	15		中	0		8	6				
内	0		8	15	7		西	0		15	15				
上							島								
村	2		15	15			内	2		2	1				
上	0		17	15			島	0		15	11				
村	0		15	11			内	0		1	5				
宮							上								
本	1		11	7	18		村	2		15	15				
石	2		15	15	16		島	0		9	13				
宮							上								
本	2		15	12	15		村	2		15	15				
西	1		7	15	9		保	0		4	12				
山							科								

◇女子団体

▽一回戦

青森	3	単	2	0			栃木	0	単	0	2				
		複	1	0					複	0	1				
葛西							添野								
山下	2		15	15			沢塩	0		1	9				
葛西							添野								
山下	2		11	11			沢塩	0		5	3				
河村							野中								
末兼	2		15	15	14		高松	1		7	5	17			
河村	2		11	11			野中	0		5	3				
平	2		11	11			高峯	0		5	3				
平	2		15	15			高峯	0		7	5				
葛西							中尾								
山下	2		15	15	14		星川	1		3	13	17			
葛西							中尾								
山下	2		18	15	13		浜田	0		15	15				
葛西							浜田								
山下	2		15	15			浜田	0		7	5				
河村							野中								
末兼	2		15	15	14		高松	1		7	5	17			
河村	2		11	11			野中	0		5	3				
平	2		11	11			高峯	0		5	3				
平	2		15	15			高峯	0		7	5				

▽二回戦

高知	3	単	2	0			静岡	0	単	0	2				
		複	1	0					複	0	1				
浜田							加塩								
村	2		15	15			田	0		7	9				
浜田							加塩								
村	2		11	11			田	0		7	5				
寺田							青木								
(土佐女)	2		11	11			(藤枝西)	0		1	2				
寺田							青木								
(土佐女)	2		11	11			(藤枝西)	0		1	2				
浜田							加塩								
村	2		15	15			田	0		7	9				
浜田							加塩								
村	2		11	11			田	0		7	5				
田辺							北山								
	2		11	12	11			0		4	11				
峰政							高橋								
(山陽女)	2		11	12	8		(磐城女)	1		5	10	11			
梶田							北山								
	1		5	5	18			2		15	15	16			
田辺							大内								
(山陽女)	1		5	15	16		(磐城女)	2		15	15	18			
岡山	2	単	2	0			福島	1	単	0	2				
		複	0	1					複	1	0				
葛西							添野								
	2		11	12				0		9	10				
(千葉学園)							(小山城南)								
児玉	2		11	11	8		岩崎	1		8	1	11			
(千葉学園)							(真岡女)								
葛西							添野								
山下	2		15	15			塩沢	0		1	9				
(四条畷)							(熊本中央女)								
平	2		11	11			高峯	0		5	3				
(四条畷)							(熊本中央女)								
河村	2		11	11			野中	0		0	0				
青森	2	単	1	1			北海道	1	単	1	0				
		複	1	0					複	1	0				
葛西							中尾								
山下	2		15	15	14		星川	1		3	13	17			
(千葉学園)							(札幌静修)								
児玉	2		11	11			上林	0		6	3				
(千葉学園)							(岩見沢東)								
葛西							星川								
	1		6	7	11	7		2		11	11	7			
富山	2	単	1	1			岡山	1	単	1	0				
		複	1	0					複	0	1				
金田							梶田								
喜多	2		15	15			辺田	0		9	11				
(高岡女)							(山陽女)								
三田	2		11	11			峰政	0		7	2				
(藤園女)							(山陽女)								
金田	0		(キケン)				2	田辺							

▽準決勝

青森	2	単	1	1			高知	1	単	1	0				
		複	1	0					複	1	0				
葛西							浜田								
山下	2		18	15	13		村田	0		15	15				

◇男子ダブルス

▽一回戦

清野 新田 2 (福島)	15 18 6 14	0	中山 斉藤 (埼玉)
西山 矢部 2 (滋賀)	15 15 2 0	0	今田 香川 (香川)
末河 兼村 2	15 15 4 6	0	葛西 山下 (北海道)
平 2	11 11 3 5	0	児玉
大阪 2	単 1 1 0 0	0	青森
金田 2	12 11 9 5	0	浜田
三田 2	3 4 11 11 4	2	寺田
金多田 2	15 15 9 12	0	浜田村
富山 2	単 1 1 0 1	1	高知

▽三位決定戦

平 2	11 11 0 0	0	三田
末河 兼村 2	15 15 4 13	0	喜金 多田
大阪 2	単 1 1 0 0	0	富山
葛西 2	11 11 6 5	0	浜田
児玉 1	11 11 12 2 12	2	寺田

▽決勝

清野 新田 2 (福島)	15 18 6 14	0	中山 斉藤 (埼玉)
西山 矢部 2 (滋賀)	15 15 2 0	0	今田 香川 (香川)
末河 兼村 2	15 15 4 6	0	葛西 山下 (北海道)
平 2	11 11 3 5	0	児玉
大阪 2	単 1 1 0 0	0	青森
金田 2	12 11 9 5	0	浜田
三田 2	3 4 11 11 4	2	寺田
金多田 2	15 15 9 12	0	浜田村
富山 2	単 1 1 0 1	1	高知

◇女子ダブルス

▽一回戦

河村 末兼 2 (大阪)	15 15 13 3	0	浜田 村川 (高知)
葛西 山下 2 (北海道)	15 15 12 4	0	中尾 星川 (青森)
野呂 松月 2	15 15 10 10	0	楠丹 美藤
西山 矢部 2	15 15 6 7	0	喜良 川原
野呂 松月 2	15 15 7 3 5 15	1	喜良 川原
楠丹 美藤 2	15 15 12 13 12 15	1	西山 矢部
喜良 川原 2 (山口)	15 15 6 6	0	清野 新田 (福島)
西山 矢部 2 (滋賀)	15 15 1 9	0	坂本 石崎 (石川)
野呂 松月 2 (三重)	15 15 13 10	0	千葉 中川 (北海道)
楠丹 美藤 2 (青森)	15 6 15 12 15 3	1	宮本 石本 (熊本)

▽二回戦

河村 末兼 2 (大阪)	15 15 4 4	0	北内山 (福島)
葛西 山下 2 (青森)	15 15 2 6	0	加塩 小田 (静岡)
梶田 辺田 2 (岡山)	15 15 16 10 5 17	1	喜金 多田 (富山)
高野 松中 2 (熊本)	15 15 7 9	0	添野 塩沢 (栃木)

▽準決勝

末河 兼村 2	15 15 8 6	0	高野 松中
山葛 下西 2	15 15 12 4	0	梶田 辺田
末河 兼村 2	15 15 6 5	0	梶田 辺田
高野 松中 2	17 12 15 16 15 12	1	山葛 下西

▽決勝

河村 末兼 2 (大阪)	15 15 13 3	0	浜田 村川 (高知)
葛西 山下 2 (北海道)	15 15 12 4	0	中尾 星川 (青森)
野呂 松月 2	15 15 10 10	0	楠丹 美藤
西山 矢部 2	15 15 6 7	0	喜良 川原
野呂 松月 2	15 15 7 3 5 15	1	喜良 川原
楠丹 美藤 2	15 15 12 13 12 15	1	西山 矢部

▽三位決定戦

河村 末兼 2 (大阪)	15 15 4 4	0	北内山 (福島)
葛西 山下 2 (青森)	15 15 2 6	0	加塩 小田 (静岡)
梶田 辺田 2 (岡山)	15 15 16 10 5 17	1	喜金 多田 (富山)
高野 松中 2 (熊本)	15 15 7 9	0	添野 塩沢 (栃木)

▽準決勝

高野 松中 2	15 15 7 9	0	添野 塩沢
梶田 辺田 2	15 15 10 5 17	1	喜金 多田
河村 末兼 2	15 15 4 4	0	北内山
葛西 山下 2	15 15 2 6	0	加塩 小田

▽二回戦

中西 2 (香川)	15 15 8 6	0	佐藤 (福島)
島内 2 (青森)	15 15 5 3	0	久保田 (山口)
上村 2 (熊本)	15 15 5 5	0	池田 (三重)
保科 2 (滋賀)	18 15 16 12	0	佐々木 (北海道)

◇男子シングルス

▽一回戦

上村 2 (熊本)	15 15 5 5	0	池田 (三重)
島内 2 (青森)	15 15 5 3	0	久保田 (山口)
中西 2 (香川)	15 15 8 6	0	佐藤 (福島)
保科 2 (滋賀)	18 15 16 12	0	佐々木 (北海道)

▽二回戦

河村 末兼 2	15 15 8 6	0	高野 松中
山葛 下西 2	15 15 12 4	0	梶田 辺田
末河 兼村 2	15 15 6 5	0	田梶 辺田
高野 松中 2	17 12 15 16 15 12	1	山葛 下西

▽準決勝

河村 末兼 2 (大阪)	15 15 4 4	0	北内山 (福島)
葛西 山下 2 (青森)	15 15 2 6	0	加塩 小田 (静岡)
梶田 辺田 2 (岡山)	15 15 16 10 5 17	1	喜金 多田 (富山)
高野 松中 2 (熊本)	15 15 7 9	0	添野 塩沢 (栃木)

▽決勝

河村 末兼 2	15 15 8 6	0	高野 松中
山葛 下西 2	15 15 12 4	0	梶田 辺田
末河 兼村 2	15 15 6 5	0	田梶 辺田
高野 松中 2	17 12 15 16 15 12	1	山葛 下西

▽三位決定戦

上村 2 (熊本)	15 15 7 2	0	鈴木 (埼玉)
清水 2 (石川)	15 15 11 9	0	島内 (青森)
保科 2	18 17 17 16	0	清水
上村 2	15 15 6 3	0	中西
清水 2	15 17 9 15 8 16	1	中西
上村 2	15 15 3 9	0	保科

▽準決勝

上村 2 (熊本)	15 15 7 2	0	鈴木 (埼玉)
清水 2 (石川)	15 15 11 9	0	島内 (青森)
保科 2	18 17 17 16	0	清水
上村 2	15 15 6 3	0	中西

▽決勝

上村 2 (熊本)	15 15 7 2	0	鈴木 (埼玉)
清水 2 (石川)	15 15 11 9	0	島内 (青森)
保科 2	18 17 17 16	0	清水
上村 2	15 15 6 3	0	中西

▽三位決定戦

平 2	11 11 6 1	0	児玉
児玉 2	11 11 4 6	0	上林
平 2	11 11 8 2	0	高峯

◇女子シングルス

▽一回戦

高峯 (熊本) 2	11 11 3 5	0	青木 (静岡)
平 (大阪) 2	11 11 0 4	0	三田 (富山)
上林 (北海道) 2	11 12 1 3 9 11	1	高橋 (福島)
児玉 (青森) 2	11 11 3 6	0	寺田 (高知)
高峯 (熊本) 2	11 11 5 7 2 11	1	峰政 (岡山)
平 (大阪) 2	11 11 1 1	0	岩崎 (栃木)
高峯 2	11 11 4 5	0	上林

▽二回戦

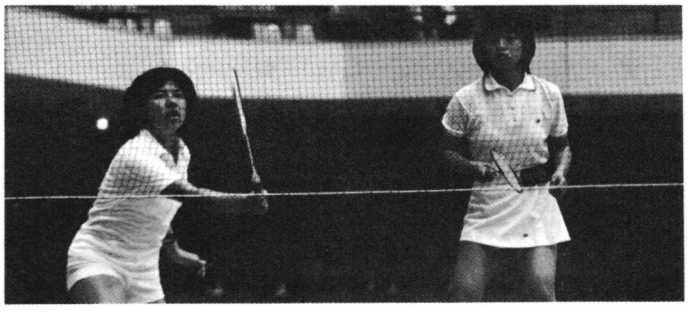
上村 (熊本) 2	15 15 7 2	0	鈴木 (埼玉)
清水 (石川) 2	15 15 11 9	0	島内 (青森)
保科 2	18 17 17 16	0	清水
上村 2	15 15 6 3	0	中西
清水 2	15 17 9 15 8 16	1	中西
上村 2	15 15 3 9	0	保科

▽準決勝

高峯 (熊本) 2	11 11 3 5	0	青木 (静岡)
平 (大阪) 2	11 11 0 4	0	三田 (富山)
上林 (北海道) 2	11 12 1 3 9 11	1	高橋 (福島)
児玉 (青森) 2	11 11 3 6	0	寺田 (高知)
高峯 (熊本) 2	11 11 5 7 2 11	1	峰政 (岡山)
平 (大阪) 2	11 11 1 1	0	岩崎 (栃木)
高峯 2	11 11 4 5	0	上林

▽決勝

平 2	11 11 6 1	0	児玉
児玉 2	11 11 4 6	0	上林
平 2	11 11 8 2	0	高峯



女子複1位の河村・末兼組

まだ精神的にも、肉体的にも不安定の時期とあって、男女とも優勝候補が順当に勝ち上ったが、男子ダブルスは波乱の連続であった。

波乱の主役を演じたのは、丹藤・楠美（東奥義塾）で、丹藤の気力あふれる好リードから引き出された楠美の、サウスポーからのスマッシュを駆使して、二回戦で宮本・本石（九州学院）を、準決勝では西山・矢部（比叡山）を、ともにファイナルの末破って決勝進出を果たした。

宮本・本石は、一年生の本石を攻撃されると、宮本もあせる、といった場面がしばしば見られ、春の大会でそれを克服しろというのが無理なのだろう。これを良薬に、夏の全国大会までの精進が期待される。

西山・矢部のペアは、敗れはしたが、今大会のダブルスでは一番の安定味を感じた。西山のネット前のプッシュ・アタックには天性の手首の柔かさがあり、丁寧なシャトル運びと配球が出てくれば、やはり夏の大会の、優勝候補の筆頭であろう。

決勝に進出した丹藤・楠美も、連続した強豪との試合に精根を尽くしたのか、野呂・松月（伊勢）の前に、抵抗の糸口を見出せずに、簡単に押し切られてしまった。

優勝した野呂・松月は、ともにスマッシュに威力があり、相手コートのセンター、ボディをついたコースが、とりわけ目を引いた。

シングルスでは、優勝した上村（九州学院）をはじめ、保科（比叡山）、清水（金沢市工）、中西（高松第一）、佐々木（釧路商）らが、夏までにどれだけ成長するか、楽しみである。

男子団体優勝・九州学院高校中田先生の話……とにかく、全員が自分の持場をよく自覚して、責任を果たしてくれました。団体戦が目標だっただけに何も言うことはありません。これまでに育ててくれた、西田淳二郎先生に、本当に感謝しています。きっと喜んでくれるでしょう。

女子は、大阪・四条畷学園高校の独壇場であった。団体戦の一回戦、野中・高松（熊本中央女）に、ゲームを取られただけという、その相手にも個人戦決勝では難なく勝ち、完璧な内容であった。


男子単2位の保科


男子複1位の野呂・松月



男子団体優勝の宮本、中田先生、上村、本石（左から）の熊本チーム

合宿訪問

基礎作りに歯をくいしばって

東京女子体育大学バドミントン部



レギュラーの座めざして

三月二三日から二七日までの四泊五日の日程で、山梨県県営体育館で行なわれた東京女子体育大学の合宿を訪問した。部員は四十余名で、その内、大学へ来てからバドミントンを始めた者も少なくなく、他の一部の大学には見られない特色である。

合宿では、主に「体力作り」と「基礎技術の習得」に重きをおいてあったが、この山また山に囲まれた甲府の地での合宿は、絶好の場所といえよう。

今回の合宿には、滋賀県と東京から、高校生が約十名ほど特別参加しており、大学のプレーヤーから数多くのことを学び取るとともに、若々しい、新鮮な刺激を与えていた。

キャプテンから

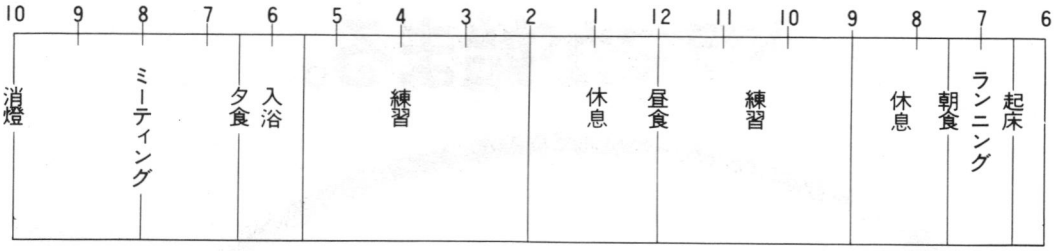
まず、今回の合宿における全体の目標として、二つ念頭に掲げてあり、第一に「体力作り」。春休み明けの合宿であるので、ブランクの間の体力の回復をはかると同時に、よりすぐれた、持久力・筋力・柔軟性・調整力を養うものである。その内容としては、早朝練習でのランニング。また、練習の合い間のトレーニングとして、主にダッシュ（ただ、たんに走るのではなく、いろいろな位置、例えば、正座や寝た体勢から）を中心として、瞬発力や敏しょう性を高める。

第二の目標として「基礎技術の習得」これは、春休み中の第二回目の合宿に向けて、徹底的に行なった。新たに一年生も迎え、また、五月のリーグ戦への準備段階として順当であろう。内容としては、毎日、午前九時から十二時と午後二時から五時半までの六時間半の練習の中でフットワークを一時間半程度行ない、その他、オールロング、オールショート、クリヤーのコーナー打ち等の基礎をくり返した。これらの基本は、個々の自覚により、基本技術の向上を異にするものであろうが、それぞれに、有意義な時を持てたことであると思う。

更に、個人の目標をも立ててあり、それについても、大体全体の目標と一致するものであった。一部、ブランクの間の太り過ぎを反省し「走り込んでやせよう」を心がけている者もあり、普段の生活とバドミントンは、密着していなければならないと考える。一般的に女子に多いのであるが、急に太って動けない、また、やせたのは良いが、体力不足の傾向は困りものである。

新一年生の中では精神面での反省も数多く、新しい環境で、特に、大学と高校のクラブでの生活態度等……早く慣れて、本

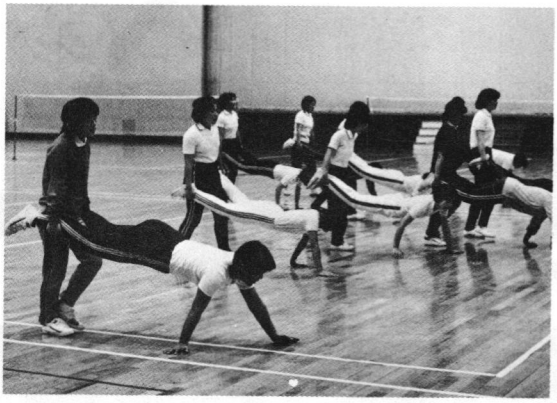
〈日　程〉



領を発揮してほしいところである。

コーチから

現在、部員に期待することは、中国やインドネシアの様な団体行動のすばらしさと、ヨーロッパ諸国の独特の自由さ……この二つを兼ねそなえた、つまり「厳しさ＋楽しさ」といったようなプレーヤーとして育てていきたい。また、勝つためだけの練習ではなく、練習でつちかわれたものを生かし、社会に耐えていけるようなたくましさを養うと同時に、いつまでも仲間を大切にするような人間に育てたい。



体力強化が最大の目標

Beautiful people（ビューティフルは、美しいだけではなくすばらしい）

選手から

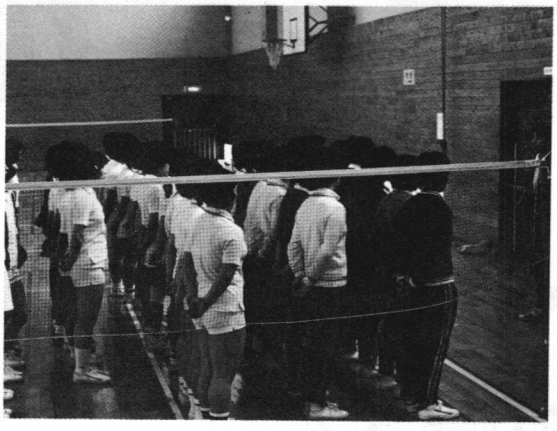
まず、第一に体力作り。約一ヵ月近くも打ってないので、コートに入っても前の感覚どおりにやれなかった。以前より速く動けるようになったが、基本練習の時は、やはりどこかで気をぬくことが多かった。

この合宿では、体力作りと基本に忠実にプレーすることを考えていた。でもシャトルに対して、まだ身体の動きが遅いと思った。とくにフォア側のクリヤーのタイミングが悪く、ダブルスの時は、バック側が弱いこと。また、ショートサービスに、安定性がない……等、自分の欠点がよくわかった。

シーズンオフのために、基本らしい基本も打てなくなっているので、一度目の合宿は、まずもとにもどすことで精一杯であった。新入生を加えて、自分のプレーも〝若さ〟というより何となくまとまってしまった様で少し、淋しい感じがした。二度目の合宿では、理想を高くもった練習をしたいと思う。

少しでも動けるようにと、この合宿に参加しましたが、全然足がついて行かなかった。身体が重くて思うように動けず、特に前に落とされたシャトルは、全くといってよいほど拾えなかった。これから、走り込んで減量し、速い動きを身につけたいと思っている。また、礼儀や態度の面でも、いろいろと勉強になり、しっかりやって行きたい。

▼以上、キャプテン・コーチ・選手の声を集めてみました。今年の活躍に期待しましょう。



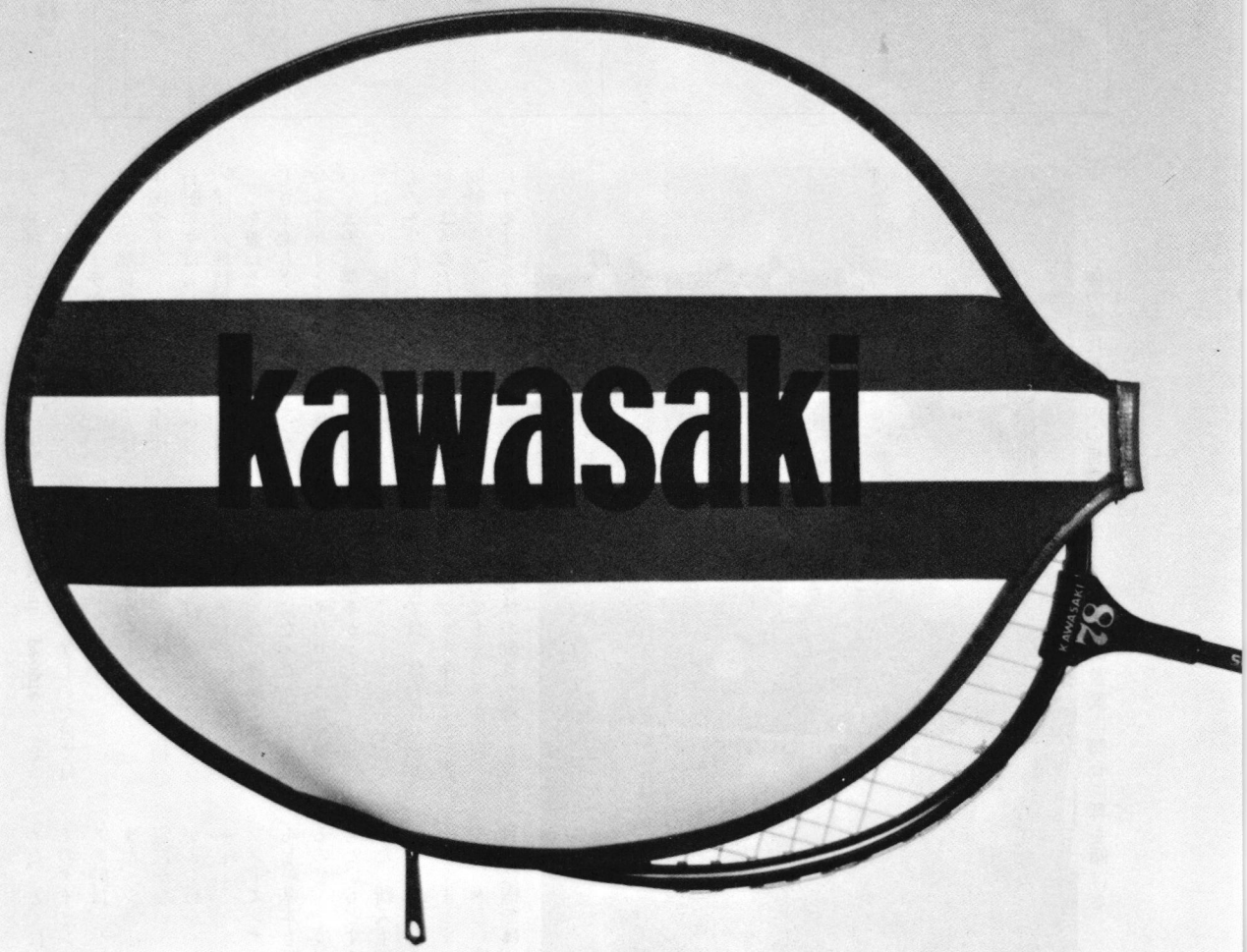
コーチの言葉に熱心に耳を傾ける



納会では〝電線音頭〟も登場で大爆笑

カワサキラケット
河崎ラケット工業株式会社

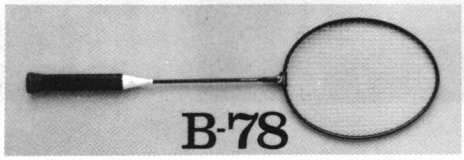
ドラマが始まる。



世界が燃える。

イギリス、デンマーク、インドネシア…
世界のコートで実力を発揮し、活躍するカワサキ。
数々の勝利のドラマを生み、
トッププレーヤに注目され続けています。

アルミ、クロームモリブデン、アルミ合金ダイカストを採用。
それぞれの特性を充分いかした軽く、弾力性豊かな新製品です。



No.B-78/セブンエイト/モスグリーン(アルミフレーム)
フレーム価格6,000円(ケース付)


MADE BY SUNBATTA
SUNBATTA
Rush
SunBatta
BADMINTON RACKET
S-75
Rush
サンバタ

われらのクラブ 5

練習日が待ち遠しい

杉並・レディスクラブ

明日はバドミントンの練習日だと思うと、心うきうきしてくる。当日は、いつもより早起きしてパッパッと、家事をかたづけさっそうと体育館へ。上手になりたい一心で練習にうちこむ。私の一番充実した時である。やりはじめてまだ一年半程なので、まだまだバドミントンのバの字ぐらいに足を踏み入れた程度だけれど、もうやめられない。知れば知るほどいかにむずかしいものであるかを痛感する。それを一つ一つ征服していくところに、バドミントンの魅力が、あるのであろう。私もバドキチの一人になっていくような気がする。

バドミントンを始めてからもう四年になろうとしているが、年数と上達度は比例することなく、逆に、年齢に反比例するごとく、まったくうまくならず、われながら「年齢」の限界を感じる今日この頃です。

しかし週一回の練習は楽しく一生懸命練習した後のすがすがしさにひかれ練習日が待ち遠しく思われます。

ダブルスはペア同志が気持を合わせ、お互いに相手の立場を考えてあげることがいかに大切かを小さなシャトルが教えてくれます。

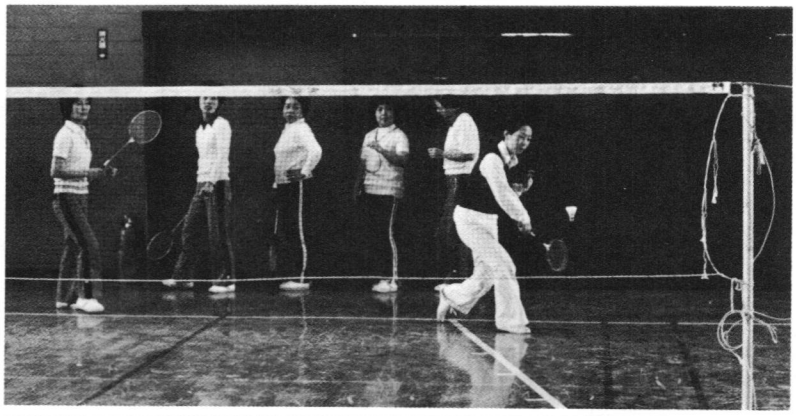
一人一人が真剣にシャトルを追っているメンバー厳しい練習の中でお互いに楽しく語り合える仲間の集いがいつまでも続くことを願っています。

ラケットの持ち方さえ何一つ知らない私がバドミントンを始めたのは今から二年前で、三十?歳の時でした。見るのとやるのとは大違いで始める前は何と優雅なスポーツぞよと思ったのにこれまた、大変な重労働でした。(羽根つきくらいにしか思っていなかったのですから)シャトルの当て方打ち方さえわからずの私ですから、コーチの方相手の方にはずいぶん迷惑もかけました。少し乱打をすると息がハーハーしてあと十歳いや二十歳も若かったらなーと情けなく思う事しばしば。毎週特訓を

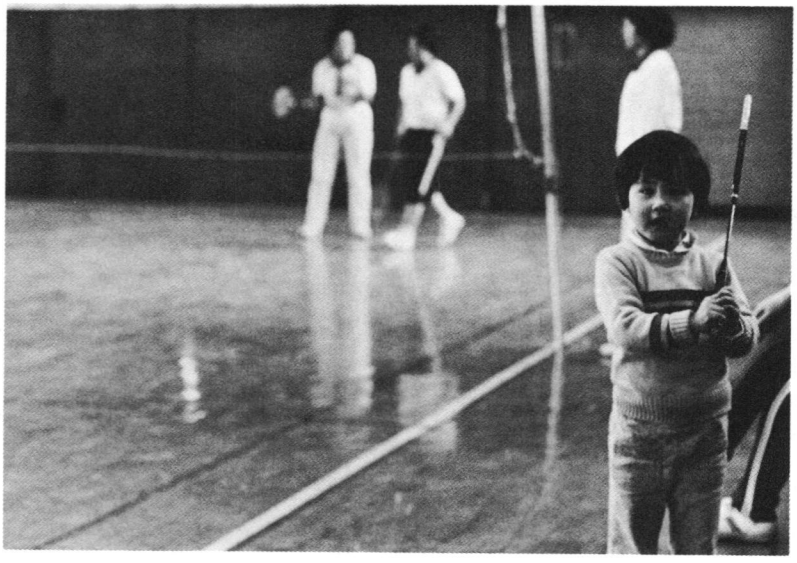


細くうつしてネ(これはムリなご注文……カメラマン)

基礎もみっちり練習します



わたしにもやらせて!!



バドミントンの中毒にかかって、直る見込みのないのがかえってうれしい。

家庭婦人という事で、あらゆるものを犠牲にできないし、限られた時間で練習しなければならないのだけれど、私達レディス……杏バドをしているすべての家庭婦人にいえる事は、ご主人、そして家族全員の理解があっての事と感謝しています。

運動不足とストレス解消に役立てばと気軽に始めたバドミントンですが、実際にやってみて、思っていたほど優雅で簡単なスポーツではなく、相当過激ではあるが、それだけにやりがいがあって、とても楽しいスポーツだということがわかりました。お陰様で二年が過ぎました。練習不足のせいで腕の方は余り上達しませんでしたが、スポーツを通して新しい多くの友を得た事等々、利点が沢山有り、できればこれからもずっと続けたいと思います。

なにげなく区のたよりをみていて、バドミントン教室が目にとまり、体育館が近くのせいもあって入会しました。

白いシャツに白いスコート、生きているかのように動く羽根、しばしみとれていたものでした。そして数年、とくに感じることは、経験者との力の差、どうしてこんなに違うのかしらと思う妬ましい気持が、先日、四篠畷学園での合宿をまのあたりにして、納得しました。ああ、二十歳に若返れたらと、思わず出た一言。

コートに入ればなにもかも忘れて夢中になれること、その一瞬を求めて続けていこうと思います。

バドミントンをしている人には、まめで多趣味で隠れた才能の持主が多いようです。試合の日には朝早くから出かけなければならないというのにきれいな手作りのお弁当、お茶、コーヒーはいうに及ばず、スープまで持参する人がいます。

自分が好きなことをしているものですから、ご主人のゴルフ、麻雀にもケチはつけませんし、子供に対しても決して決して口うるさい教育ママではないようです。これから結婚なさる男性諸氏には、バドミントンをやっている女性をおすすめします。

▼杉並・レディスクラブの人々のナマの声〝誌上録音〟です。クラブの雰囲気が楽しく伝わりますね。

受けてるのに腕の方はぜんぜん上達せず思うように体が動かないのです。絶望的デス。こんなダメな私ですが、幸い優秀なコーチが指導して下さり、良い先輩、仲間に恵まれて最高です。

「杉並レディスクラブ」の一員として、これからも金曜日の練習日には一生懸命ガンバッテいこうと思います。？十年後にこうゴ期待!!

私達のクラブは、グリーンのユニフォームで知られているレディスクラブで優秀な人もいれば、私のようなものもいて、三十五歳の手習？では、上達も遅く、悩んでいます。これから基礎練習を重ねて頑張っていきたいと思っています。いつまでも若くいたいしね。

ひょっとして、もうじき開花するかと期待して、クラブに通ういつもだけれど、なかなか思うようにはいかない現状、しかしこれ程面白いものがあるかと

第1回個人世界バドミントン選手権大会

湯木、栂野尾ら10名派遣

五月三日～八日・スウェーデン・マルメ

来たる五月三日から八日まで、スウェーデンのマルメで開催される第1回個人世界バドミントン選手権大会に、湯木博恵選手をはじめ十名の代表が派遣されることになった。

団体戦の世界選手権は、男子のトマス杯、女子のユーバー杯大会が、それぞれ三年ごとに行なわれているが個人戦は、これまで毎年ウェンブレーで開かれている全英選手権大会が事実上の世界選手権とみなされていた。

しかしこれは、国際バドミントン連盟（IBF）主催の公式大会ではなかった。そしてIBFでは、国際オリンピック委員会（IOC）に対して、バドミントンをオリンピック種目に加えるよう働きかけており、そのため実績づくりの目的もあって、本大会が発足することとなった。

読者の皆様はすでにご承知のように、日本のバドミントンはいまや世界のトップクラスにあり、とくに女子は、今年の全英選手権大会で、湯木がシングルス、栂野尾・植野組がダブルスでチャンピオンの座を獲得している。そして、ユーバー杯大会でも第四回から第六回まで三連勝をとげている。

日本協会では、今大会に下記のとおり、わが国第一線のプレーヤー十名の派遣を決定した。ぜひとも各種目に輝かしい成績を残してもらいたい。

▽監督　板垣隆房（立大出・日本協会選手強化委員長）

▽男子選手

池田信孝（法大出・電電東京）
栂野尾昌一（法大出・ヨネックススポーツ）
銭谷欽治（中大出・河崎ラケット）
土田証雄（日大出・電電東京）

▽女子選手

湯木博恵（日本女子体大出・河崎ラケット）
栂野尾悦子（新潟青陵短大出・ヨネックススポーツ）
徳田敦子（四条畷女短大出・サントリー）
近藤小織（日本女子体大）
高田幹子（四条畷女短大出・サントリー）
植野恵美子（四条畷女短大）

◆スポーツと安全◆

"スポーツ安全協会傷害保険"へ加入しよう

スポーツ活動を行なうものとして、日常から自らの健康状態を把握しあらゆる状態に対処する心構えがあり、一方指導者の安全管理と安全指導の対策があれば、活動における事故の相当多い部分は防止されるでしょう。

しかしどんなに注意を怠らなくても、予想もしなかったような原因で発生するのが事故であります。そこで万一事故が発生してしまった機会、それによって生じた損害を最少の費用で補償できるのが保険です。

ここに誰もが安心して体育・スポーツ活動等に親しみ、また指導者は積極的な指導を行ない得る体制の保険が必要となってくるわけです。

スポーツ安全協会の傷害保険は、こうした要望に応えて、文部省や日本体育協会等の尽力により全国的規模の互助共済によるスポーツ傷害保険として誕生し、昭和四十六年度から実施に入ったものです。

この保険は、一種と二種があり一種は主として社会教育団体所属の構成員を、すなわちスポーツ少年団、婦人団体、地域スポーツクラブなどの構成員を、二種はスポーツ競技を主たる目的とする団体の構成員が加入の対象となります。二種は更にその競技の性格からABCの三つのランクに分かれ（ランクによ

り保険料金が異なる）バドミントンは卓球、テニス、水泳、軟式野球、ゴルフなどの競技と共にCランクに当たります。なおバドミントン競技は、ポピュラーなスポーツで幼児から老人まで広く愛好され特に地域住民の親睦や健康保持を主たる目的とする性格から一種への加入対象にもなります。

傷害場合別の事故状況等について

バドミントン競技のスポーツ安全協会傷害保険への加入団体数と同人員数は左表のとおり、年々増加を示し、昭和五十年度においては六八団体、一六四五人が加入しています。バドミントン競技は登録人員約七六万人と推定される競技者に対し、加入率は約二%位でスポーツの安全対策の面から見てまだまだ少ない数字です。

さて傷害保険の件数及び同発生率については、スポーツ安全協会の調査による、同協会傷害保険加入者を対策とした昭和四十六年から同四十九年までの四ヵ年間における、二種の傷害事故発生状況は、昭和四十六年度二・一七%、四十七年度二・〇四%、四十八年度一・七八%、四十九年度一・五七%となっており、四ヵ年平均で一年間の事故発生率は一・七九%ですなわち一〇〇〇人当り一七・九人となっております。バドミントン競技においては、四ヵ年の事故発生率は左表のとおりで、一年間平均の事故発生率は〇・五三%で二種全体平均一・七九%を下回っています。

これを一事故について、団体数では九団体に一事故、加入人員では一八八・六人に一人となっております。なお一種の一年間平均事故率は〇・四二%でやはり、競技関係の方が事故が多く発生しています。

バドミントン競技傷害事故調査

年度	加入団体 A	加入人員 B	事故件数 C	一事故に対する 団体数 A／C	一事故に対する 加入人員数 B／C	事故率 %	二種全体の加入人員数
昭・四六	八	一四一	一	八・〇	一四一・〇	〇・七一	一四、八九四
昭・四七	二五	四五三	五	五・〇	九〇・六	一・一〇	三六、二六八
昭・四八	三四	六九三	三	一一・三	二三一・〇	〇・四三	四五、四九四
昭・四九	四三	九七六	三	一三・七	三二五・三	〇・三一	六二、一五八
計	一〇八	二、二六三	一二	九・〇	一八八・六	〇・五三	

○昭和五十年度加入団体数：六八　加入人員数：一、六四五

スポーツ安全協会傷害保険の加入案内

この保険は、責任者をおき団体員が明確に把握されている団体員十名以上の団体の構成員が対象です。申込みは所定の加入依頼主により責任者が一括して一人につき年額一二〇〇円（一種は三〇〇円）を添え、都道府県教育会保健体育課内（または道村県体育協会）にある、スポーツ安全協会支部に致します。死亡・後遺障害の保険金額は三〇〇万円、医療保険金日額は、非入院中一〇〇〇円、入院中一五〇〇円となっています。なお特に希望があれば、S型（保険料・保険金額は半額）の加入も可能です。保険期間は、毎年四月一日から翌年三月三十一日までです。

補償の対象となる行動の範囲（担保条件）は、団体管理中と往復途上の傷害事故で、団体管理中とは練習中、競技中の危険のみの担保でなく、広く団体の管理下の活動中の事故を担保します。また加入者一人でも、その団体の責任者の承認を得れば、国、地方公共団体、日本体協、競技団体（本部、支部）等の主催する競技会、講習会等に参加している間における、スポーツ活動中の事故についても特に団体管理とみなし保険金支払の対象になるので、参加する大会のために特別な保険加入を必要にしたい恩典があります。

詳細は、前記スポーツ安全協会支部または日本バドミントン協会にご照会下さい。

（財団法人スポーツ安全協会参事　茶谷蔵吉）

大会のスケジュールが決まりました

昭和52年大会予定カレンダー

◆国内◆

▼すでに行われたもの

第8回全日本女子チャンピオンズトーナメント（4・24）

▼これから行われるもの

▽第27回全日本実業団選手権大会（6・17～22大阪・京都）

▽第28回全国高等学校選手権大会（8・1～6倉敷）

▽第16回全日本教職員選手権大会（8・8～12下関）

▽第7回全国中学生大会（8・15～17伊勢）

▽第3回全日本男子オールスターダブルス（8・29東京）

▽第20回全日本社会人選手権大会（9・15～18真岡）15

▽第32回国民体育大会（10月初め青森県浪岡）

▽第26回全日本学生選手権大会（11・1～7鳥取）

▽昭和52年度全日本総合選手権大会（12・14～18東京）

▽第5回全日本実業団対全日本学生対抗（1・16東京）

▽昭和52年度全日本総合選手権大会団体戦（2・25、26東京）

▽第9回全日本女子チャンピオンズトーナメント（2月東京）

▽第6回全国高等学校選抜競技会（3・19～21東京）

◆国際・海外◆

▼すでに行われたもの

▽第1回世界個人選手権大会（5・3～8スウェーデン）

▼これから行われるもの

▽第6回日中親善試合（7月中旬または11月中旬～下旬東京）

▽ニュージーランド・オーストラリア招待（7月中旬～下旬）

▽オーストラリア・オープン（8・27～9・2）

▽カナダ交流試合（未定）

▽カナダ・オープン（10・27～30）

▽第8回世界女子選手権（ユーバー杯）大会アジア地区予選対韓国戦（10・23、30東京）

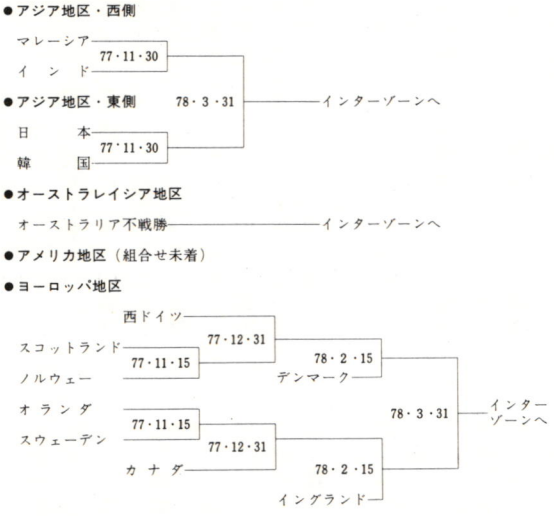
▽スウェーデン・オープン（1・6～8）

▽デンマーク・オープン（3・8～11）

▽第68回全英選手権大会（3・15～18）

◎ユーバー杯大会アジア地区予選対韓国戦に勝つと3月31日までに、マレーシア対インドの勝者と、アジア地区決勝を行う。

第8回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会組合せ



（注）
日付はいずれも、その日までに対戦するものという意味であって、開催日ではない。
インターゾーンは1978年5月下旬から6月上旬にかけてニュージーランドで開かれる。

編集室から

◆今月号は第2回アジア招待バドミントン選手権大会の特報と、第67回全英選手権大会の速報を中心に編集しました。

◆独特の雰囲気の中で行なわれるアジア大会の模様が、グラフから少しでもくみ取っていただけるでしょうか。男女とも依然として〝中国旋風〟が吹き荒れて、各国の脅威となっていましたが、日本選手も銭谷選手が、優勝した中国の虞耀東とファイナルの好ゲームを展開し、女子は徳田・高田組が2位、近藤選手が3位と気を吐いていました。次回の開催が待ち遠しくなってきましたネ。

◆湯木さん、梅野尾さん、植野さん、全英選手権優勝おめでとうございます。これからも連覇を重ねて、そしてユ杯奪還にも日本チームの中心として頑張ってください。

◆2年のブランクが響いた男子選手も、コンディション調整を万全にして来年こそは朗報を期待しています。

◆皆様からの投稿をお待ちしています。**観戦記・クラブ便り**など何でも結構です。本誌編集部宛お送りください。

バドミントン界　通巻第91号　1977年5月号　定価 300円

昭和52年5月1日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

©1977　無断転載を禁ず

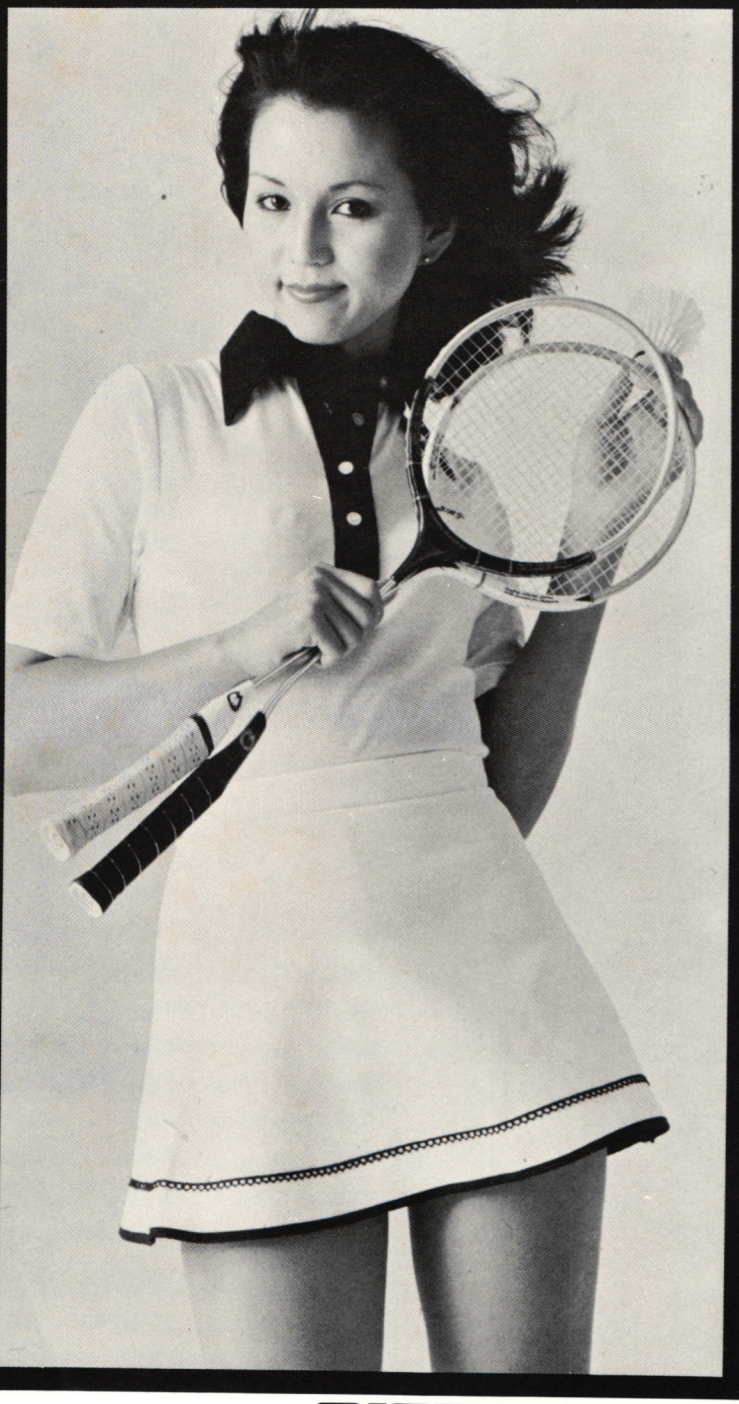
発行所・日本バドミントン協会

郵便番号150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111(代表) 内線351
振替　東京5-32193(協会)　東京5-9525(編集部)

ウインテックスウェアはシンプルにはぎれよく

Wintex WEAR®







スワニーが保つ権威の
シャトル/最高級品。

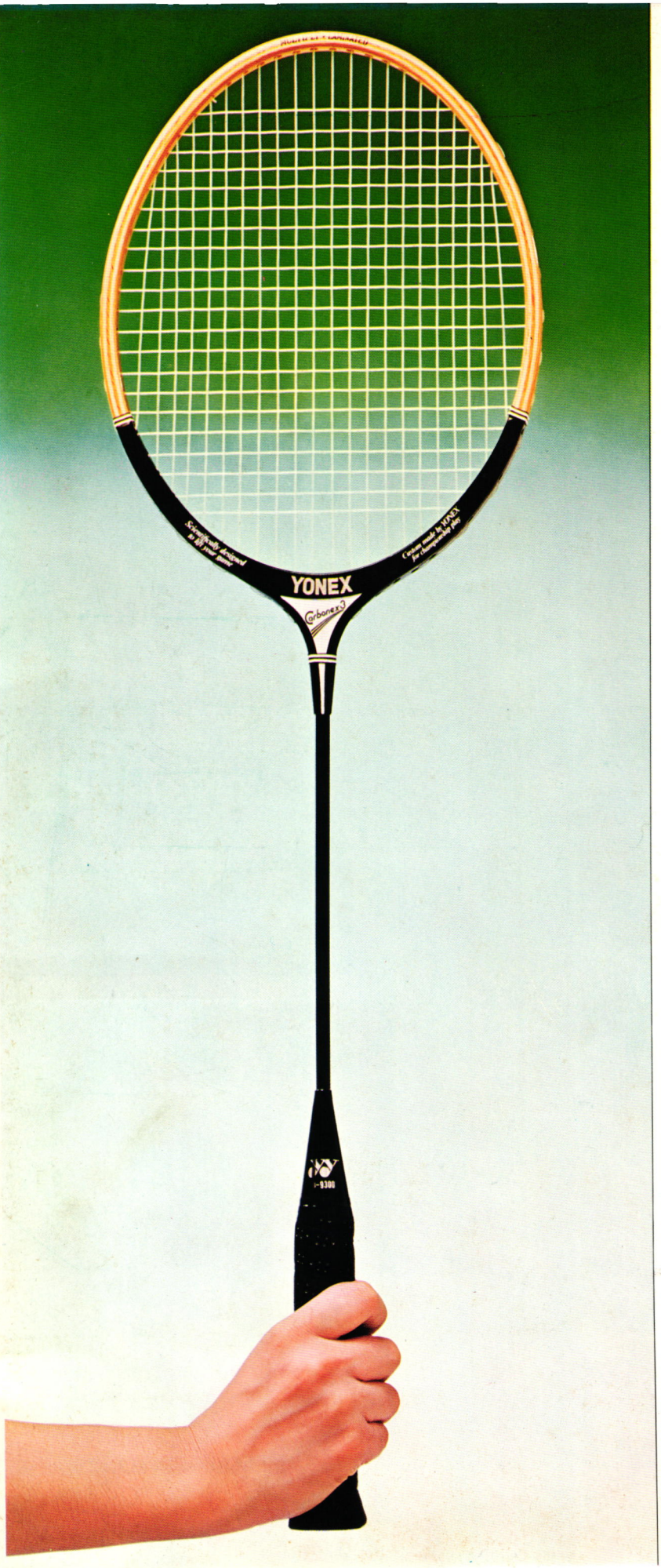


BADMINTON SHUTTLE COCK

SWANNY

株式会社ゴーセン
■本　　社●大阪市東区豊後町4　　☎(06)942-5816 代
■東 京 支 店●東京都台東区蔵前4-14-2 ☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8 ☎(092)712-5247 代

月刊「バドミントン界」5月号
昭和五十二年五月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所　東京都渋谷区神南一ノ一ノ一



凄いのが生まれた、カーボネックススリー。

ヨネックスがまた、世界で初めてということをやってのけました。それが、初のカーボンシャフトをもつラケット、カーボネックススリー。強烈な反発力。そしてすべてのストロークにぴたりと適合するというたぐいまれな特性は、まさにカーボンならではのもの。いわばオールマイティなラケットといえましょう。世界のトッププレイヤーが力から技へそしてまた力へと移ってきた今、その変化に応えられるのはこれ、カーボネックススリー。

B-9300 Carbonex3

●カーボネックス スリー《新製品》……¥7,500

YONEX